

資料集

- (1) 研修等で実際に使用できる資料
- (2) 教育支援資料(文部科学省)より
- (3) アセスメントシート
- (4) 支援・配慮例のイメージ図(Co-MaMeより)

資料(1)
研修等で実際に使用できる資料

病気のある子どものアセスメント と支援・配慮の考え方

(研修での活用例)

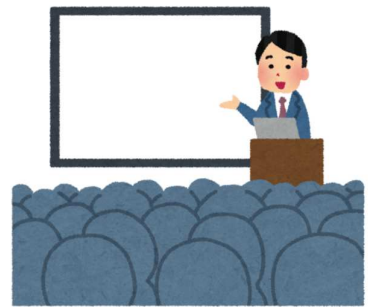
本日の内容

国立特別支援教育総合研究所では、平成26～27年度、平成28～30年度に、からだの病気、こころの病気のある子どもの教育支援・配慮に関する研究をそれぞれ取り組んできました。

その成果に基づき、こころの病気について、教育ニーズの把握と具体的な支援・配慮について、ワーキングを入れながら紹介したいと思います。

配付資料は、

- ・ 本スライドの資料
[教育支援ガイドで必要な資料を適時追加]
- ・ 教育的ニーズのアセスメントシート
- ・ 教育的支援・配慮のガイド（Co-MaMe提供版）



病気の子どもたちの支援・配慮には

- **教育的なニーズの適格な把握（アセスメント）が必要**
- 基礎的環境整備、合理的配慮の観点で整理
- 自立活動の観点による教育的指導



- 今回の資料を活用（教育的な支援・配慮のヒント）
- 特別支援学校のセンター的機能も活用可能



- 教育的ニーズの整理を行うワーキングの実際を経験
- 個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用

教育的ニーズの的確な把握が必要

- 入院の短期化・頻回化により短期間で学びの場が移行
- 病気の子どもの多くが小・中学校の通常の学級に在籍



- 子どもの発達段階、病状、周囲の環境など様々な要素が変わっていく
⇒病気の子どもの教育的ニーズは多様で個別性が強い



- 合理的配慮の検討、自立活動の計画作成には、関係者間で「**共通の視点**」、多角的・総合的な「教育的ニーズ」把握、適切な「支援・配慮」提供することが重要

病気のある〇〇さんの教育的ニーズは？

こころの病気、
不調で、日常生活や
学校生活で困っている
ことは？

学校にいきたくない
やる気が出ない
悲しくなる



からだの病気、
日常生活や学校で
困っていることは？

咳（例）でつらい
痛みで集中できない
勉強が遅れる



現在指導している（あるいは過去に指導した）病気の子どもを例に（まずは一人）、教育的ニーズを書き出してみましよう。

- 教育的なニーズとは、「学習上又は生活上、何らかの教育的な支援・配慮が必要であると考えられること」と定義します。
- 子どもたち（保護者を含む）が要望する（意思の表明）合理的配慮につながるニーズだけではなく、教育の特性として、指導等を含む教員が考える教育的ニーズも含みます。
- 学校、担任（教員）として、子どもたちへの教育的支援・配慮（合理的配慮〔変更と調整〕を考える基礎）、あるいは、自立活動を含む教育的な指導・配慮（個別の指導計画等を考える基礎）に応用できます。

アセスメントシートの記入

1. 想定するケースを決める

- ・ 想定する児童生徒を決めましよう

2. チェックシート：児童生徒の教育的ニーズ40項目

- ・ 想定したケースの教育的ニーズについてリストに○を記入
- ・ 複数での比較、あるいは、経過を見ることも可能です。
- ・ ところ編では、シート見ながらニーズをチェックします。

3. 自由記述用シート：支援・配慮の具体例を記入

- ・ 想定した事例の支援・配慮を記入します。
- ・ まず、課題となることを整理します（複数ニーズに対応）
- ・ 実際の支援・配慮を、Co-MaMeを参考にして記入していきます。
- ・ その後、その支援・配慮のねらいを記入ましよう。
- ・ 最後に、自立活動の観点でチェックましよう！

精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的ニーズの アセスメントシート

1. あなたがこれまで指導してきた精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮について伺います。
 (1) どの学部の児童生徒を想定するかについて、該当するもの一つにチェック (✓) を記入してください。
 小学部児童 中学部生徒 高等部生徒
 (2) 精神疾患等のある児童生徒の教育的ニーズのチェックリストの各項目について、事例(最初の説明を参照)に該当する教育的ニーズについて、チェック欄に○を記入して下さい(複数事例の場合は、●◎使用)
 (自立活動 健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション)

教育的ニーズの項目 (内容の参考例)	チェック欄	自立活動 (確認用)
1. 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)		健心人環身コ
2. 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)		健心人環身コ
3. こだわり (一つのことこだわると他のことが考えられない)		健心人環身コ
4. 意欲・気力 (目標がもてない、やる気がおきない)		健心人環身コ
5. 自己理解 (何が正しいか自分でも分からない)		健心人環身コ
6. 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に書けない)		健心人環身コ
7. 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		健心人環身コ
8. 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		健心人環身コ
9. 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		健心人環身コ
10. 集団活動 (集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)		健心人環身コ
11. 社会のルールの理解		健心人環身コ
12. コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		健心人環身コ
13. 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)		健心人環身コ
14. 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)		健心人環身コ
15. 教師との関係 (教師を信用しない)		健心人環身コ
16. 異性との関係		健心人環身コ
17. 他者への信頼 (人が信用できない、人と関わりたくない)		健心人環身コ
18. 他者への相談 (困った時に相談できない)		健心人環身コ
19. 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)		健心人環身コ
20. 学習状況 (勉強の仕方が分からない)		健心人環身コ
21. 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		健心人環身コ
22. 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容が分からない)		健心人環身コ
23. 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		健心人環身コ
24. 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		健心人環身コ
25. 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)		健心人環身コ
26. 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		健心人環身コ
27. 経験 (生活経験が低い)		健心人環身コ
28. 身体症状・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や嘔吐がおこる)		健心人環身コ
29. 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		健心人環身コ
30. 動作・体力 (体力がない、動きはやくできない)		健心人環身コ
31. 多動性 (じっとしてられない、待てない)		健心人環身コ
32. 感覚過敏 (においに敏感、大きな音が嫌)		健心人環身コ
33. 見通し (予定の変更が受け入れられない)		健心人環身コ
34. 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		健心人環身コ
35. 登校・入室への抵抗感 (学校に行きたくない、教室に入れない)		健心人環身コ
36. 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまったりことが多い)		健心人環身コ
37. 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		健心人環身コ
38. 服薬 (薬が手配できない、薬の管理が面倒)		健心人環身コ
39. 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		健心人環身コ
40. ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)		健心人環身コ
※ その他(例:清潔)		健心人環身コ

教育的支援・配慮の記載

(3) (2) で該当する教育的ニーズに対して、重要と考える4項目を選択し、実際に行った教育的な支援や配慮(指導を含む)について、※記入例を参考に、具体的に記入して下さい。そのねらいについて、自立活動の6分野を参考に簡単に記載して下さい。支援・配慮例は「複数」の記載可能です。

項目	記入欄
①教育的ニーズの項目	
②課題	
③支援・配慮等のねらい	
④自立活動として指導している内容 ※未記入でも可	健康の保持・心理的な安定・人間関係の形成・環境の把握・身体の動き・コミュニケーション
⑤教育的支援・配慮 (上記の自立活動以外)	

意見交換の時間

- 座席の隣同士 / 前後で、教育的ニーズ・教育的な支援・配慮について、意見交換をしてください。
- ワークシートに、記入した教育的ニーズや支援・配慮について情報交換をしましょう。

【教育的ニーズ】

- 個別性が高いこと
- 病名が異なっても同じニーズがあること
- 教育的ニーズが変化すること

【支援・配慮】

- 複数のニーズに対応していること
- 子どもの状況で変化すること
- 合理的配慮、自立活動と関連付けること



上記のことなどを感じて頂ければ良いかと思えます。

「病気の子どもの教育支援ガイド（からだ編）」の紹介

●病気の子どもの教育支援ガイド

- （ジアース教育新社刊）
 - 著者名 編著 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
 - ISBNコード ISBN978-4-86371-406-9 C3037
 - 判型/頁 B5判/140頁
 - 発売日 2017年 3月30日
 - 特別支援学校（病弱）や小・中学校等の教職員、関係機関職員が、病気の子どもへの教育的ニーズについての理解を深め、ニーズに応じた支援・配慮を検討する際のサポートブックです。
 - 教職員が知っておきたい、病気の子どもへの具体的な支援・配慮事項について、事例を挙げながら、具体的に分かりやすく、コンパクトにまとめました。
 - 子どもの実態把握を行うケース会議や入院中の子どもが復学する際の支援連携会議のほか、病弱教育の経験の少ない教員のための研修テキストとしても活用できます。小児がんも含めています。
- 研究の途中で作成した試案は、研究所のホームページからダウンロードできます。あわせて、ご活用下さい。
- http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/12409/saika7_shiryu.pdf



資料（2）

教育支援資料

～障害のある子供の就学手続と
早期からの一貫した支援の充実～

平成25年10月

（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）

より

⑬心身症

心身症とは、診察や検査で詳細に調べると異常が見いだされる身体の病気であって、その病気の始まりと経過にその人の心理的な問題や社会的問題が密接に関係しているものである。密接に関係しているとは、身体的治療のほかに心理社会的問題へも対応しなければ完全には治らないという意味である。子供の心身症についても大人と同じ症状を示すのが普通であるが、一方、子供に特徴的に出現する心身症もある。症状としては、腹痛や頭痛、疼痛などが認められる。例えば、心理社会的な問題と腹痛がある場合には、胃潰瘍などの器質的な疾患があれば心身症とするが、器質的な疾患がない場合には、その病気の始まりと経過にその人の心理的問題や社会的問題が密接に関係している場合には身体表現性障害と診断される。前述の身体表現性障害では、器質的な疾患がないため、環境調整と心理療法を主に行うが、心身症の場合には、これらに加えて器質的な疾患に応じた薬物療法等が必要となる。よって心理的・社会的な問題が密接に関係している身体症状の場合においても、一度は器質的な疾患の有無について精査を行い、診断することが重要である。対応としては、①薬物療法、②環境調整、③心理療法などがある。心身症には様々なものがあるが、最も多いのが反復性腹痛と頭痛である。

最近、特別支援学校（病弱）に神経性食欲不振症や神経性過食症などの摂食障害の診断を受けた子供が増えている。以下、これらの病気の概略について説明する。

ア 反復性腹痛

反復性腹痛とは、子供の活動に支障を来すほどの腹痛が、3回以上、3か月以上にわたり反復するものをいう。原因不明のものが多く、不安や緊張感によって症状が出たり強くなったりする傾向がよく認められ、この点が心身症として考えられる理由である。経過では、腹痛を訴える回数が次第に減少し、いつの間にか改善している、ということがよくある。しかし、約三分の一は腹痛が軽くなるものの、思春期以降まで何かストレスがあると腹痛を起こしやすい傾向は残るといわれている。腹痛が長時間持続する場合、その少なくとも半数は、最終的に過敏性腸症候群の症状を示してくるといわれている。

イ 頭痛

頭痛の訴えは、子供の痛みの訴えの中では腹痛に次いで多い。心理的なものとの関係では緊張性頭痛といわれるものがある。緊張的

頭痛は、精神的な緊張感を背景として、頭を包む筋肉が持続的に収縮したままとなって発生する。この筋肉は肩の方にもつながっているので、同時に、肩こりや首筋のだるさ、重さ、頭重感などを伴うことがしばしばである。

ウ 摂食障害

摂食障害は通常、神経性食欲不振症あるいは神経性無食欲症（以下「AN」という。）と神経性過食症あるいは神経性大食症（以下「BN」という。）を包括するものをいう。摂食障害は、10代はじめから20代にかけての思春期・青年期の女性が大半であるが、稀（まれ）に男性にも生じることがある。ANでは、極端に食事の量が減るが、特に主食やカロリーの高い食品を毛嫌いし、低カロリーと本人が思う食品しか摂りたがらないという食行動上の特徴が目立ち、中には摂食後に自分で嘔吐（おうと）したり、下剤を乱用する者もいる。

ANとの診断がなされる条件としては、体重減少の程度が平均体重のマイナス15%以下とされている。ANは、他の病気があってやせているわけではなく、むしろ過剰に活動的になることが多く、同時に異常にやせていても自分ではそうとは認識していないことが多い。身体症状としてはむくみ、低体温、徐脈などの症状がみられ、女性

の場合には無月経となるか、初潮前の発症では初潮年齢が遅れる。体重減少が続き徐脈などが進行する場合、急激な体重減少が生じた場合、あるいは水の摂取さえ拒むようになった場合などには、入院治療の必要性を含め、家族と緊密な連絡を取り合いながら医療の判断を仰ぐ必要がある。BNは単なる大食でなく、繰り返される過食と体重のコントロールに過度に没頭することが特徴で、過食の後に自分で嘔吐したり、下剤や利尿剤を乱用することがあり、精神的いらいら、抑鬱、自己嫌悪などの精神症状を伴うことが多い。このような症状はANにも認められることがあり、ANとBN両方の病像を行ったり来たりすることもある。体型は普通か少しやせ気味な場合が多く、精神症状も身体症状も外見からはわかりにくいことから、本人の訴えで初めて分かることが多いという点がANとは異なる。治療は身体療法、精神療法、認知行動療法、薬物療法、家族療法などを適宜組み合わせて行われることが多いが、ANを中心に生命の危険もある場合には入院治療を導入されることも少なくない。いずれの場合にも、学校は家族の同意を得た上で、主治医と緊密な連携を図りながら本人の回復とその後の経過を根気よく支えることが大切である。

⑭ うつ病等の精神疾患

様々なストレスが増加する社会の中で、うつ病や双極性障害（そううつ病）を中心とする気分障害等の精神疾患を発症する大人が多くなってきている。以前は子供に、うつ病はないと言われた時代もあるが、DSM-IIIが世に出てからはDSMによる操作的診断が普及する中で、うつ病や双極性障害等の診断を受ける子供は、大人と同様に、けっして珍しくなくなっている。抑うつ症状はうつ病だけでなく、統合失調症などあらゆる子供の精神障害によく認められる。また、自閉症や学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害の診断を受けた子供がストレスの強い環境に反応して、二次的に抑うつ症状を呈することがあるため、児童精神科医などの専門家でないと診断は難しい場合が多い。うつ病は、大人と基本的な症状は同じであるが、子供の場合は抑うつ気分を言葉で表現することが難しいため、ぼうっとした感じになったり、不機嫌になったり、いらいらして周囲に当たり散らしたり、大人に反抗したり、頭痛や腹痛などの身体症状を訴えたり、不登校となったり、学業成績が低下したりするなど子供特有の非定型な症状が見られるので注意が必要である。非常に早い周期で気分の波が現れたり、そうかと思うと完全に症状が無くなる間欠期が、見られたりする場合もある。子供のうつ病や双極

性障害では、このように症状が大人と異なるだけでなく、薬物療法の効果が大人のように認められないこともある。正確な診断は子供の成熟とともに、経過中に徐々に明らかになることがあるため、途中で変更を余儀なくされることも珍しくない。疾患により治療アプローチは異なるものの、学校場面では安定した関わりと病期に応じた柔軟な対応が予後に影響する。これらの対応は、学校と家庭が協力して行い、必要な場合には、速やかに児童精神科医や臨床心理士に相談すること。特別支援学校（病弱）には、うつ病や双極性障害等の気分障害の子供もいるが、思春期以降に発症することが多い統合失調症を10歳前後で発症したという子供もいる。また、自閉症や学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害の診断を受けた子供も増えている。発達障害の子供は、それだけでは特別支援学校（病弱）の対象ではない。学習障害や注意欠陥多動性障害の子供は、小中学校の通常の学級で学習することが基本であるが（自閉症については、自閉症・情緒障害特別支援学級で学習することはできる）、必要な場合には通級による指導を受けることもできる。しかし、これらの子供の中には、成長とともにうつ病や強迫性障害、適応障害、統合失調症等の精神疾患の症状が顕在化し、在学中に診断名が付け加わったり変化したりすることもある。このような状態の子供の中

には、特別支援学校（病弱）で学習することが必要となることもある。そのため、最近では、特別支援学校（病弱）の小学部の高学年や中学部、高等部に転校してくることも多い。また、うつ病等の精神疾患の診断を受けた子供の中には、家庭や以前いた学校で虐待やいじめを受けた経験のある者もあり、指導する教員や他の子供に攻撃的な行動をとったり、自傷行為を繰り返したりすることがある。また、子供によっては、他の子供と一緒に活動することが苦手な孤立しがちな者や、教員に過剰に甘えてくる者もあり、教員に求められる対応も一人一人異なることを心得ておきたい。子供が情動不安定になっても、病気の症状のために自己制御が困難であるとの認識に基づいて、教員が子供の行動に振り回されずに、いつも変わらず落ち着いた態度で接することが求められる。精神疾患の子供は、上記のように適切に対応することにより症状が改善し、通常の教育で対応可能な状態になることも多いため、学校における適切な対応が求められる。なお、特に下記のような症状が現れている時には、家族の了解を得た上で、児童精神科等の専門機関に相談し、連携して取り組むことが重要である。

○ 幻覚、妄想

悪口が聞こえるという幻聴や周りから嫌がらせをされるという被害妄想が多い。幻覚や妄想は、実際にはないことを信じているということが定義であり、思春期以降に発症することが多い統合失調症の主症状である。稀（まれ）に統合失調症が10歳前後で発症することもある。統合失調症では、これに加えて、辻褄（つじつま）の合わない話をしたり、引きこもることが多いが、逆に興奮したりする場合もある。治療法は、薬物療法が必須（ひつす）である。その他には、自閉症などの発達障害において、障害の特性から対人関係をうまく築くことができず、いじめなどの心理的なストレスを引き金に、被害妄想や幻覚が生じることもある。この場合、原因との関連が心理的に了解可能な幻覚妄想であるという性質をもち、環境調整と心理療法が有効である。児童が実際に悪口を言われたり、いじめを受けていたりしているかどうかの事実関係の確認などが必要である。

○ 希死念慮、自傷行為

希死念慮（きしねんりょ：死にたいと願うこと）や自傷行為は、子供に時にみられる症状である。希死念慮や自傷行為が認められる

中で、自殺企図（自殺をくわだてること）や自殺既遂に至るものは少ないが、生命の危機であるため、家庭と連携した十分な注意と対応を必要とする。特に自殺企図があったり、強い希死念慮が持続的に認められたりする場合は、対応法は個々のケースで異なる。子供の命を守るため、家族と相談の上、児童精神科等の専門機関に相談することが必要である。

資料（3）

アセスメントシート

病気（からだところ）のある児童生徒の教育的ニーズアセスメント

及び教育的支援・配慮整理シート

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 病弱教育研究班

I. 教育的ニーズアセスメント及び教育的支援・配慮整理シートの活用目的

本シートは、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の病弱教育研究班の研究「インクルーシブ教育システム構築における慢性疾患のある児童生徒の教育的ニーズと合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究」（平成 26～27 年）「精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的ニーズおよび支援・配慮」（平成 28～30 年度）に関する研究成果の中で、病気のある児童生徒の教育的ニーズに関するアセスメントと教育的支援・配慮を整理して活用できるように作成したものです。

教育現場で担当する児童生徒の教育、あるいは、研修等に活用ください。

慢性疾患については、支援ガイドを出版しており（平成 29 年 3 月）、精神疾患及び心身症については、出版を予定しています（※平成 31 年度以降）。いずれも、研究所のホームページで研究段階のプロトタイプについては閲覧・利用できます。

※本シートにおける「教育的ニーズ」の定義

子どもの学習上または生活上何らかの教育的な配慮が必要であると考えられることの総称で、教師が必要と感じた内容も含めております。

II. 活用の方法（手順）

からだの病気編

慢性疾患のある子どもたちの教育的ニーズを記載した後、キーワードを参照にして、5つのカテゴリー・16項目に整理します。それぞれの教育的ニーズに対する教育的な支援・配慮については、「病気の子ども教育支援ガイド」（ホームページにプロトタイプ掲載、市販もあります）を参考にします。その上で、合理的配慮との比較から、個別の教育支援計画の作成に活用します。

※なお、小中学校・高等学校では、特別支援学校と異なった病気に対する理解等も必要です。

上記の支援ガイドにそのヒントを記載しておりますが、主治医との連携も進めましょう。

こころの病気編

精神疾患及び心身症のある子どもたちの教育的ニーズについて、40項目をチェックします。心理・社会性だけではなく、6つのカテゴリー全てについて確認しましょう。次に、子どもたちの課題を記入し、最初にチェックした教育的ニーズで該当するものを選択し、それぞれの教育的支援・配慮について、支援・配慮の概要および Co-MaMe [ホームページに掲載予定] を参照にします。具体的な支援・配慮例については、ご自身の経験や多くの情報も含めて記載しましょう。そこから、具体的な指導計画として、自立活動の6区分を参照にして、個別の指導計画、あるいは、個別の教育支援計画に反映させます。※児童生徒の変化の様子をみて、調整・変更します。他の教員との意見交換も有効ですので本シートをもとに検討をすすめると良いでしょう。

III. 利用に関する注意事項（著作権と免責）

本シートの著作権は国立特別支援教育総合研究所にあります。学校現場での使用に関しては個々の許諾は必要なく、自由に活用頂けます。なお、その際の使用結果については使用者に責任が帰属します。

一方で、研究においては、許可なく使用できませんので、ご留意下さい。研究で使用する場合は、本研究所の病弱教育研究班に必ず許諾を得て下さい。

〒 239-8585 神奈川県横須賀市野比 5-1-1

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所（病弱教育研究班）

病気(からだ)の子どもの事例検討及び支援計画シート(教育的ニーズ、支援・配慮)

ステップ(1)

慢性疾患(からだの病気)のある児童生徒の教育的ニーズについて、思いつくままに記載してみましょう。
※教育的ニーズ;ここでは、子どもの学習上または生活上何らかの教育的な配慮が必要であると考えられることを総称して「教育的ニーズ」といいます。子ども本人が困っていると思うことだけでなく、本人が困っていなくても教員が必要と考える内容も含めます。

ステップ(2)

記載した教育ニーズを下記(表1)のカテゴリーとキーワードを参考にして、ワークシート(表2)の項目に、教育的ニーズの概略を記入して整理していきます。

表1 病気の子どもの教育的ニーズのカテゴリー及びキーワード

教育的ニーズ		掲載ページ	
カテゴリー	キーワード		
学習面	1.学習指導	学習空白、学習の遅れ、学習意欲、指導時間	P12 (P.35)
	2.前籍校(地元の学校)	前籍校との連携、前籍校の友達とのつながり、復学後のケア	P13 (P.37)
	3.経験	経験の不足、語彙の不足	P15 (P.41)
	4.進路	進路の選択、キャリア教育、移行支援	P16 (P.43)
自己管理	5.自己理解・病気の理解	自己理解、病気の理解、治療の理解	P17 (P.45)
	6.自己管理	生活上の制限、セルフケア、体調管理、基本的な生活習慣	P18 (P.47)
	7.ストレス	入院中のストレス、ストレスへの対処	P19 (P.49)
対人面	8.人間関係・集団活動	人間関係の希薄さ、友達とのつながり、集団活動への参加	P20 (P.51)
	9.コミュニケーション	コミュニケーションスキル、年齢・場に応じた行動・言動、自分が必要な支援を求める力	P21 (P.53)
心理面	10.自己肯定感・自己効力感	自己肯定感・自己効力感の低下、成功体験の不足、自信の獲得	P23 (P.55)
	11.心理的な安定	心理面へのケア、感情のコントロール	P24 (P.57)
	12.不安	学習面の不安、病気への不安、将来への不安	P25 (P.59)
連携	13.医療等との連携	医療との連携、福祉サービスの把握、関係者間の情報共有	P26 (P.61)
	14.保護者との連携・支援	保護者との連携、保護者のストレス、福祉機関等の情報	P27 (P.63)

※掲載ページは、ホームページに掲載している研究成果報告書の資料、括弧内は「病気の子どもの教育支援ガイド」(ジアース社)のページ数を示します。

表 2. 教育的ニーズ整理用のワークシート

教育的ニーズ		実施可能な支援・配慮 (誰が、いつ、どこで)
項目	内容	
病気・障害に関すること		
学習面	<input type="checkbox"/> 学習指導	
	<input type="checkbox"/> 前籍校（地元の学校）	
	<input type="checkbox"/> 経験	
	<input type="checkbox"/> 進路	
自己管理	<input type="checkbox"/> 自己理解・病気の理解	
	<input type="checkbox"/> 自己管理	
	<input type="checkbox"/> ストレス	
対人面	<input type="checkbox"/> 人間関係・集団活動	
	<input type="checkbox"/> コミュニケーション	
心理面	<input type="checkbox"/> 自己肯定感・自己効力感	
	<input type="checkbox"/> 心理的な安定	
	<input type="checkbox"/> 不安	
連携	<input type="checkbox"/> 医療等との連携	
	<input type="checkbox"/> 保護者との連携・支援	
<input type="checkbox"/> 施設設備		
その他		

ステップ（3）

ワークシート（表 2）に記載されたニーズに対する教育的支援配慮を、「病気の子どもの教育支援ガイド」（ホームページよりダウンロード、または、出版物）から抽出していきます。抽出したものを、ワークシート（表 3）の右側の余白に記入していきます。該当するページは、表 1 に示しています。

病気の子どもの教育支援ガイド（試行）～研究所のホームページに掲載

http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/12409/saika7_5.pdf

ステップ（４）

合理的配慮の検討及び個別の教育支援計画の作成に利用します。

合理的配慮の提供で必要な実態把握を、このワークシート（教育的ニーズ）により行い、「教育的支援・」配慮例を参考にして、合理的配慮を検討していきます。合理的配慮との項目は、表３を参考にして下さい

なお、「その他」については、病気そのもののニーズや個々の病気により必要な配慮になります。この部分は、医療的な内容も十分加味する必要があります。主治医との連携以外に、疾患群による配慮の例（合理的配慮の支援を含む）は、病気の子どもの教育支援ガイドの p112～p133（文部科学省の教育支援資料を含む）でも紹介しております。また、慢性疾患については、小児慢性特定疾病情報センター（<https://www.shouman.jp/>）でも情報が入手できます。

表３ 合理的配慮の観点・項目と教育的ニーズのカテゴリーとの関連

合理的配慮の観点・項目		教育的ニーズのカテゴリーと支援・配慮の視点
① 1 教育内容	①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・【経験】：語彙の拡充 ・【自己理解・病気の理解】：病気や治療の理解、自己理解の促進 ・【自己管理】：生活上の制限の理解、自己管理支援、基本的生活習慣の確立 ・【ストレス】：ストレスマネジメント ・【コミュニケーション】：必要な支援の要求、社会性の育成
	①-1-2 学習内容の変更・調整	<ul style="list-style-type: none"> ・【学習指導】：学習状況の把握、指導内容の精選・学習進度の調整、授業の工夫
① 2 教育方法	①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・【学習指導】：ICTの活用 ・【前籍校（地元の学校）】：交流活動の実施 ・【コミュニケーション】：コミュニケーションの場の設定
	①-2-2 学習機会や体験の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・【進路】：進路支援 ・【経験】：経験する機会の設定 ・【人間関係・集団活動】：集団参加の場の設定、集団活動への参加方法の工夫
	①-2-3 心理面・健康面の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・【自己肯定感・自己効力感】：成功体験・賞賛される経験、教師の声掛け ・【心理的な安定】：感情のコントロール、興味・関心のある活動の設定、受容的な関わり ・【不安】：不安の軽減

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズ・チェックリスト

<ステップ1> 児童生徒の実態把握 [教育的ニーズのチェック]

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合は、チェックしましょう！

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをすると、教育支援計画・指導計画の参考になります)

※ 心理・社会性が注目されますが、他の項目も、必ずチェックしましょう！

※ 教育的ニーズの項目 (カッコ内は、内容の参考例)

心理			
A1	不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)		
A2	感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)		
A3	こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)		
A4	意欲・気力 (目標がもてない、やる気がおきない)		
A5	自己理解 (何が辛いのか自分でも分からない)		
A6	気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)		
A7	情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		
A8	気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		
A9	自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		

社会性			
B1	集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		
B2	社会のルールを理解 (学校や社会の規則を守れない、自分で変更する)		
B3	コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B4	同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)		
B5	家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)		
B6	教師との関係 (教師を信用しない、教師とトラブル)		
B7	異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B8	他者への信頼 (人が信用できない、人と関わりたくない)		
B9	他者への相談 (困った時に相談できない)		
B10	他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)		

学習			
C1	学習状況 (勉強の仕方が分からない)		
C2	処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C3	聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容が分からない)		
C4	読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C5	記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C6	注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)		
C7	学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C8	経験 (生活経験が低い)		

身体			
D1	身体症状・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D2	巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D3	動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)		
D4	多動性 (じっとしていられない、待てない)		
D8	感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)		

学校生活			
E1	見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E2	物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		
E3	登校・入室への抵抗感 (学校に行きたくない、教室に入れない)		

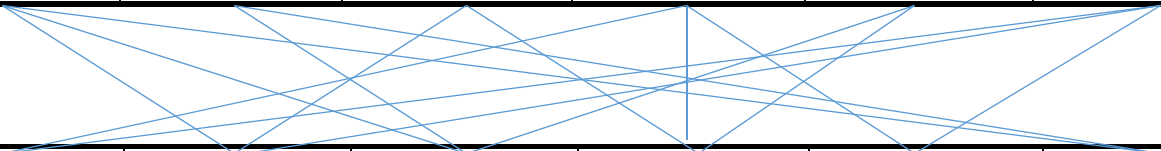
自己管理			
F1	睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)		
F2	食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F3	服薬 (薬が手離せない、薬の管理が面倒)		
F4	病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F5	ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)		

<ステップ2>

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理用シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から選びます。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象児童生徒の実態にあわせて整理し、記載します。
- ③ 課題にあわせて、教育的な支援・配慮や指導を考えて、「ねらい」を記載します。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、付録の資料 [支援・配慮の概要] または Co-MaMe [後述] を参考にして記載します。ここでは、①で選んだ教育的ニーズの項目に対応した支援・配慮を選択できます。
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考※に指導する自立活動6区分で該当するものにチェックし整理します。
⇒個別の指導計画に利用しましょう！ ※線は暫定版で、今後検討を進めます

項目		記入欄			
I 教育的ニーズの項目					
II 課題の整理					
III 支援・配慮等のねらい					
IV 教育的支援・配慮 [付録の資料を活用する場合は項目のみ、あるいは、資料にラインマーカでチェック]					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理



健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

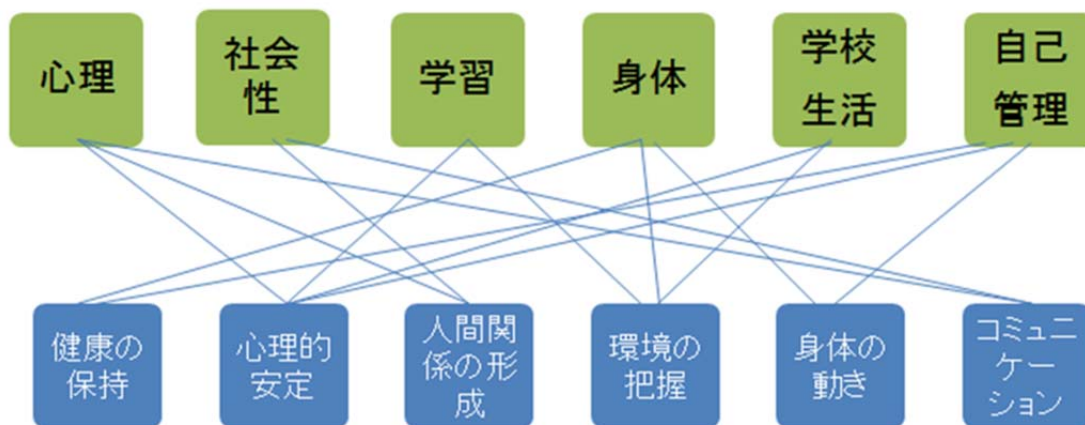
※ 他の課題がある場合には、本ページをコピーして使いましょう。

<ステップ3>

自立活動に関連して、ニーズとの関係は参考1、CoMaMe [後述] と参考2、自立活動の流れ図（文部科学省）との関連は参考3に示しましたので、具体的な支援・配慮等を計画していきます。

参考1 自立活動6区分と教育的ニーズの関連性の例示

・自立活動6区分との関連性(例)



参考2 支援・配慮と自立活動以外の対応の考え方の例示

多階層的な支援・配慮の考え方 支援・配慮の視点(自立活動など) [例示]

A-1. 不安・悩み

課題

- 不安が強いため教室に入らず、強迫的な行為や暴言・暴力がある
- 見通しをもって自らに自信がなく、新しい活動を嫌がる
- 心配が強くて経験の幅が広がらないため、進路に不安がある

受容期	気持ちを聞く(18)	話したい時にじっくり聴き、認める ・イライラすること等、感情の言語化できるようにする ・一日一回必ず話す	臨床医学的 臨床心理的 [社会的] SocialST
	無理なく好きな活動ができるようにする(15)	本人が好きな活動を行う ・授業がゆったり進めて会話を増やし、学習量を減らす ・不安になりやすい場所、時間を避ける	
	共感・理解する(4)	その時に出来ていること包摂する ・否定的な言葉を使わずに接する	
試行期	相談できる環境作り(15)	行ったことを振り返り、落ち替ける方法や対処の仕方を一緒に考える ・漠然とした不安を具体的に相談していく ・教員と信頼感を共有し、信頼関係を築く	基礎的 環境整備 合理的配慮 自立活動
	見通しをもたせる(15)	学校のルール・日程、活動内容を板書や手元で視覚的に提示する ・初めて体験すること、場所、内容を詳しく説明する ・上手いといった時のことを挙げて、大丈夫と促す	
	スモールステップで行う学習設定(5)	一つ一つ教見本を見せたり、練習したりしてから行う ・少しずつ慣れて一人で活動できるように見守る	
安定期	目標を設定して学習(9)	達成できる目標を細かく設定する ・目標が達成できたため、実音に気付かせる ・目標をクリアできない理由やその対策を考えさせる	教科指導
	対処方法を考えて取り組めるようにする(8)	ロールプレイを行い、不適切な行動を体験する ・不適切な行動を考えて練習する ・あらかじめ対策を立てられるようなスキルを身につける	
	将来に向けて学習する(5)	高校進学についての知識を身に付けられるようにする ・実習で困った場合の対応方法を身に付けられるようにする	

参考3 自立活動の流れ図（文部科学省の学習指導要領解説）に合わせた考え方

【実態把握】

- ① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中でみられる長所やよさ、課題等について情報収集
- ②-1 収集した情報（①）を自立活動の区分に即して整理する段階
- ②-2 収集した情報（①）を学習上または生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
- ②-3 収集した情報（①）を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

【指導すべき課題の整理】

- ③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

【指導目標と項目を設定】

- ⑤ ④に基づき設定した指導目標（ねらい）を記す段階（指導する指導目標を項目間で整理）
- ⑥ ⑤を達成するために必要な項目を設定する段階（6区分にあわせて、達成する項目に整理）

【項目間の関連付け】

- ⑦ 項目と項目を関連付け際のポイント

【自立活動の指導内容の設定】

- ⑧ 選択した項目を関連付けた具体的な指導内容を設定

項 目	記入欄					
I 教育的ニーズの項目	※文部科学省の自立活動流れ図（以下自活）① ⇒この時点で自活②のために、参考1により検討も行っておく					
II 課題の整理	※自活③、④ ⇒この時点で下記のIVとVを先に検討することも可能					
III 支援・配慮等のねらい	※自活⑤ ⇒この時点で、自活⑥も考慮または下記IV、Vの後に作業も可能					
IV教育的支援・配慮 [付録の資料を活用する場合は項目のみ、あるいは、資料にラインマーカでチェック] ※自活⑥、⑧ 先に支援配慮を検討して、自活⑦に整理することも可能						
A心理	会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理	

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
V自立活動として指導していく内容の整理 ※自活⑦、⑧					

上記シートを用いて、自立活動で整理の後、教科学習、合理的配慮等を含めて、個別の教育支援計画、個別の指導計画に反映させます。また、定期的に、教育的ニーズについては、実態把握をシートで行います。

付録資料

心理カテゴリーの教育的支援・配慮の概要

不安・悩み	不安が強い、悩みが頭から離れない	気持ちを聞く(18)、無理なく好きな活動ができるようにする(15)、共感・理解する(4)、相談できる環境作り(15)、見通しをもたせる(15)、相談できる環境作り(15)、スモールステップで行う学習設定(5)、対処方法を考えて取り組めるようにする(8)、目標を設定して学習(9)、将来に向けて学習する(5)
感情のコントロール	気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう	クールダウン・気分転換できるようにする(24)、トラブルへの対応(9)、気持ちを聞く(32)、共感、理解する(8)、無理なく好きな活動ができるようにする(14)、相談できる環境作り(32)、ほめる機会を増やす(5)、対処方法を自分で考えて行えるようにする(27)、自分から伝えられるようにする(5)、集団や友達と取り組む設定(3)
こだわり	一つのことにとこだわると他のことが考えられない	共感・理解する(5)、気持ちを切り替えられるようにする(8)、無理せずに行っていく(4)、見通しをもたせる(10)、相談できる環境づくり(3)、折り合いをつけられるようにする(3)、自分から取り組めるようにする(1)、集団や友達と取り組む学習設定(2)
意欲・気力	目標がもてない、やる気がおきない	無理なく好きな活動ができるようにする(3)、個別に語りかける(3)、スモールステップで取り組む学習設定(5)、行動や気持ちを振り返るようにする(1)、生活を整えるようにする(2)、集団や友達と取り組む設定(2)、自分から伝えられるようにする(1)、長期的に目標を設定して学習(4)
自己理解	何が辛いのか自分でも分からない	休息・クールダウンできるようにする(2)、気持ちを聞く(5)、見通しを持たせる(5)、行動や気持ちを振り返られるようにする(6)、スモールステップで取り組む学習設定(4)、気持ちの整理できるようにする(5)、自分の特徴を理解できるようにする(3)、自分から取り組めるようにする(3)、自分にあつた行動や生活を理解する(5)、目標を設定して学習する(2)、様々な活動を実施する(2)、集団や友達と取り組む設定(2)
気持ちの表現	気持ちを言葉・文字に表せない	共感、理解する(7)、気持ちを聞く(35)、無理せずに行っていく(7)、安心できる環境作り(4)、気持ちを伝えられるようにする(18)、気持ちの整理できるようにする(12)、行動や気持ちを振り返るようにする(5)、集団や友達と取り組む設定(3)、表現方法の学習(10)、自分自身の内面と向き合えるようにする(2)
情緒の安定	嫌なことを思い出してしまう、イライラする	クールダウン・気分転換できるようにする(16)、共感・理解する(3)、気持ちを聞く(15)、安心できる環境作り(3)、無理なく好きな活動ができるようにする(13)、見通しをもたせる(10)、気持ちの整理ができるようにする(5)、行動や気持ちを振り返るようにする(9)、気持ちの整理ができるようにする(5)、行動や気持ちを振り返るようにする(9)、自分にあつた行動の学習(11)、感情を安定させる方法を学ぶ(2)、集団や友達と取り組む設定(2)、集中して取り組めるようにする(4)
気分の変動	気分の浮き沈みがある	クールダウン、気分転換できるようにする(6)、話を聞く、共感する(4)、無理せずに行っていく(3)、安心できる環境作り(3)、気持ちを伝えられるようにする(3)、相談できる環境作り(2)、行動や気持ちを振り返るようにする(4)、見通しをもたせる(3)、集団や友達と取り組む設定(3)、自分から取り組めるようにする(4)
自信	自分に自信がない、自己肯定感が低い	無理なく楽しい活動を行う(17)、安心できる環境作り(10)、共感、理解する(7)、相談できる環境作り(11)、見通しをもたせる(5)、スモールステップで行う学習設定(20)、ほめられる機会を増やす(17)、自己評価を行えるようにする(10)、目標を設定して学習する(6)、自分から取り組めるようにする(4)、集団や友達と取り組む設定(20)、様々な活動を実施する(4)、学力を高める(6)、他者からの評価を得る(23)、将来に向けての活動設定(4)、苦手なことに取り組めるようにする(2)

社会性カテゴリーの教育的支援・配慮の概要

集団活動	集団の中にいると疲れる、ルールに従えない	安心できる環境作り(8)、無理なく好きな活動ができるようにする(3)、気持ちを聞く(2)、休息、クールダウンをできるようにする(2)、見通をもたせる(13)、相談できる環境作り(6)、集団構成や時間を工夫する(4)、スモールステップで行う学習設定(4)、気持ちを振り返るようにする(3)、ルールを守れるようにする(7)、自分の気持ちに気づき行動できるようにする(5)、他の人を意識できるようにする(4)、集団活動を通して学べるようにする(4)
社会のルールの理解	学校や社会の規則を守れない、自分で変更する	安心感できる環境作り(4)、無理せず行っていく(3)、分かりやすく掲示する(6)、相談できる環境作り(5)、行動や気持ちを振り返るようにする(3)、スモールステップで行う学習設定(2)、自分から意識できるようにする(4)、将来に向けての活動設定(4)、相手の気持ちを考えられるようにする(2)
コミュニケーションスキル	あいづちがうてない、人の話が聞けない	安心して表現できる活動設定(5)、気持ちを聞く(3)、クールダウン、気分転換できるようにする(2)、伝える方法を理解できるようにする(7)、行動を振り返るようにする(5)、気持ちや考えを整理できるようにする(5)、ほめて自己肯定感を高めるようにする(3)、集団や友達と取り組む(7)、状況に応じた行動ができるようにする(5)、自分から取り組めるようにする(5)、相手の気持ちを考えられるようにする(5)
同年代との関係	相手のことを考えた言動ができずトラブルになる	一緒に活動する(3)、トラブルに対応する(2)、気持ちを把握する(2)、*適切な発言を促す(4)、相談できる環境作り(3)、行動を振り返るようにする(3)、友達と気持ちを伝えあう設定(9)、状況に応じた行動や考えができるようにする(5)、周りの人の気持ちを考えられるようにする(4)、将来に向けての活動設定(1)
家族との関係	家族との関係がうまくいかない	気持ちを聞く(4)、ストレスの軽減を図る(4)、家族と協力する(3)、生活のリズムを整える(3)、気持ちを整理できるようにする(3)、ほめるようにする(1)、家族との関係改善を図る(5)、生活に必要な技術・態度を身につける(3)、周りの人の良いところを考える(1)
教師との関係	教師を信用しない、教師とトラブル	信頼関係を築くようなかわりをする(9)、他の教員と連携して取り組む(8)、気持ちを受け止める(8)、気楽に話せるようにする(5)、トラブルへの対応をする(4)、無理なく好きな活動ができるようにする(4)、分かりやすく説明する(8)、相談できる環境設定(6)、行動を振り返る(6)、無理のない方法で取り組めるようにする(4)、自分から気持ちを言えるようにする(6)、様々な人と活動できるようにする(5)
異性との関係	異性との関係がうまくいかない	異性と離す(4)、気持ちを落ち着かせる(2)、同性との関係づくりをする(2)、人との適切な距離を伝える(4)、無理なく集団で取り組む(3)、*少しずつ異性と取り組む(3)、異性との関わり方についての学習(3)、他者のことを考えられるようにする(2)、自分の気持ちについて考える(2)、集団での役割を与える(1)
他者への信頼	人が信用できない、人と関わりたくない	気持ち聞く(11)、安心できる環境設定(5)、人と関わらずに過ごせるようにする(5)、無理なく好きな活動ができるようにする(5)、信頼関係をつくるようにする(4)、他者と関わられるようにする(8)、見通しをもたせる(4)、相談できるようにする(3)、振り返りをする(3)、自信がもてるような学習設定(2)、苦手なものに取り組む(2)、相手の気落ちを理解できるようにする(1)、自分から気づくようにする(1)
他者への相談	困った時に相談できない	気持ちを聞いて受け止める(5)、安心して表現できるようにする(5)、クールダウン・休息ができるようにする(3)、信頼関係をつくるようにする(3)、気持ちや行動を振り返るようにする(6)、定期的に面談する(3)、見通しをもたせる(3)、モデルケースから行動を考える学習設定(1)、自分の特性から目標を設定させる(3)、自分から伝えられるようにする(3)

他者理解	表情や態度から気持ちや態度から気持ちが読み取れない	安心できる環境設定(4)、他の人と関り方を工夫する(3)、適切な他者との関わり方や感情を促す(5)、気持ちや行動を振り返るようにする(4)、見通しをもたせる(3)、友達との関わり方を工夫する(3)、友達と気持ちや意見を伝えあう設定(8)、相手の気持ちや特徴を考えられるようになる(6)、ルールについて理解する(4)、自己評価や目標を掲示して取り組む(2)
------	---------------------------	---

学習カテゴリーの教育的支援・配慮の概要

学習状況	勉強の仕方が分からない	無理なく好きな活動ができるようにする(5)、安心して取り組める設定(5)、スモールステップで学習する設定(9)、出来る内容を学習する(8)、見通しが持てるようにする(7)、ほめる機会を増やす(5)、取り組みやすいように教材を工夫する(5)、分かりやすく提示する(4)、将来に向けて取り組む(6)、宿題や補習を行う(5)
処理能力	書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない	無理なく取り組める活動を設定(4)、十分な時間をとる(3)、安心できる環境設定(3)、作業を絞る(8)、学習内容の見通しを持たせる(7)、意欲を生かしながら取り組む(3)、できることを増やす(5)、友達の様子を知る(3)
聞き取り・理解力	話を聞いても理解できない、指示内容が分からない	分かりやすく伝えるようにする(7)、安心できる環境設定(6)、気持ちを理解する(5)、説明や活動を分かりやすく説明する(10)、分かりやすく視覚的に教材を工夫する(10)、見通しをもたせる(4)、自信をもてるようにする(3)、適切な発言ができる習慣を身に付ける(3)、目標を決めて取り組む(2)
読み・書き	文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない	ほめて自信をつけさせる(5)、無理なく好きな活動から取り組むようにする(2)、書く負担を減らして学習できるようにする(19)、スモールステップで取り組む学習設定(11)、視覚的に読みやすく工夫する(10)、楽しみながら学習できるようにする(7)、丁寧に様子を見ながら取り組ませる(5)、読みやすい字が書けるようにする(5)、意欲的に学習できるようにする(5)、漢字や文字への興味関心を高める(4)
記憶力	すぐに忘れてしまう	心の安定を図る(2)、忘れない方法で取り組む(5)、与える情報を減らす(2)、将来に向けて取り組む(2)、自分から取り組めるようにする(2)
注意・集中	集中が続かない、気が散って集中できない	無理なく好きな活動ができるようにする(4)、刺激を減らす(3)、不適切な行動への対応(2)、見通しをもたせる(4)、興味をもてるように工夫する(4)、活動を短時間にする(2)、集中力を伸ばす(4)、自分から取り組めるようにする(2)
学習への意識	嫌いな教科に出たくない	無理なく好きな活動ができるようにする(7)、個別に取り組めるようにする(5)、できる内容を学習する(9)、興味を持てるように授業を工夫する(4)、将来に向けての活動設定(6)、自分から取り組めるようにする(4)、苦手なことに取り組めるようにする(4)
経験	生活経験が低い	無理なく活動できるようにする(3)、スモールステップで取り組む学習設定(3)、不適切な行動の対処を考えられるようにする(2)、将来に向けての活動設定(9)、集団や友達と取り組む設定(7)、様々な活動を実施する(3)

身体カテゴリーの教育的支援・配慮の概要

身体症状・体調	お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる	気持ちを聞く(5)、気持ちをそらす活動をする(3)、不安を感じないようにする(3)、体調を整える(2)、気持ちや身体の状態を表現する(4)、見通しをもたせる(2)、身体の状態を知る(2)、身体の変化への対策を考える(5)、自分の気持ちに気付けるようにする(2)、友達と活動する(1)
巧緻性	手先を使って操作することが指示通りできない	興味や自信がもてるが持てる学習設定(5)、失敗しない簡単なものを行う(3)、活動の手順を分かりやすくする(4)、身体を動かしながら取り組む(3)、作品の評価が得られる設定(3)
動作・体力	体力がない、動きがはやくできない	無理なく活動できるようにする(6)、好きな活動を行えるようにする(3)、動作を分かりやすく示す(6)、身体のバランスを育てる活動設定(6)、ほめて自信をつけさせる(5)、分かりやすい活動を設定(5)、楽しんで身体を動かせるようにする(4)、日常的に自分から行えるようになる(4)、様々な活動に取り組む(3)
多動性	じっとしてられない、待てない	無理せず気持ちを受け止める(6)、好きな活動ができるようにする(4)、クールダウン・休憩ができるようにする(3)、適切な行動を分かりやすく伝える(11)、見通しを持たせる(9)、身体を動かしながら学習する設定(9)、無理なく活動できるようにする(6)、ほめる機会を増やす(6)、振り返りをする(3)、集団活動から学べるようにする(5)、自分から取り組めるようにする(3)
感覚過敏	においに敏感、大きな声が嫌	道具を工夫して不快感を減らす(9)、活動する空間や時間を整える(9)、気持ちを聞く、受け止める(2)、集団の参加方法を工夫する(8)、相談しながら取り組む(3)、見通しをもたせる(3)、自分で考えて行えるようにする(4)

学校生活カテゴリーの教育的支援・配慮の概要

見通し	予定の変更が受け入れられない	気持ちを聞く(2)、活動している様子を見させる(2)、クールダウンさせる(1)、予定や持ち物を確認させる(9)、分かりやすく視覚的に提示する(9)、気持ちや体調から無理せずに行う設定(3)、行う活動内容を説明する(2)、長期的な予定が分かるようにする(6)、将来に向けて取り組む(2)
物の管理	忘れ物が多い、物をなくしてしまう	個別に気持ちを聞いて受けとめる(2)、整理方法に取り組ませる(10)、視覚的に分かりやすくする(7)、教員と一緒にやる(7)、予定を確認しながら取り組ませる(4)、ほめて達成感をもたせる(3)、整理する時間の設定する(2)、自分でできるようにする(5)、定期的に振り返りする(2)
登校・入室への抵抗感	学校に行きたくない、教室に入れない	学習場所を柔軟に変更する(9)、無理なく好きな活動ができるようにする(5)、共感、理解する(2)、相談しながら行う設定(5)、少しずつ集団活動に参加していく(5)、友達と関わるようにする(2)、将来に向けて取り組む(3)、役割を持たせて活動する設定(1)、自分から伝えられるようにする(1)

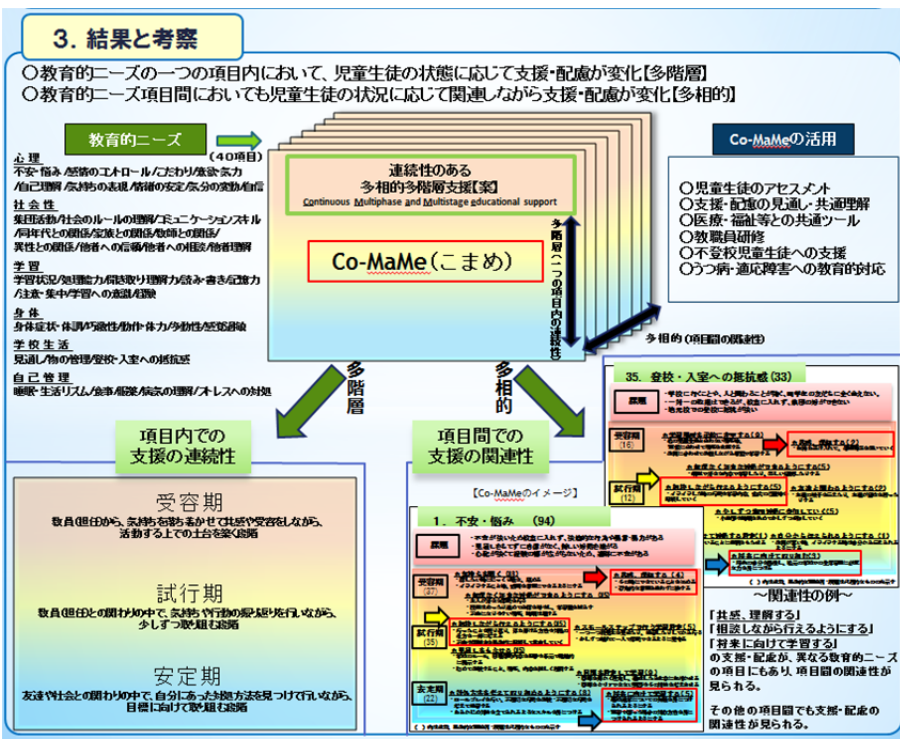
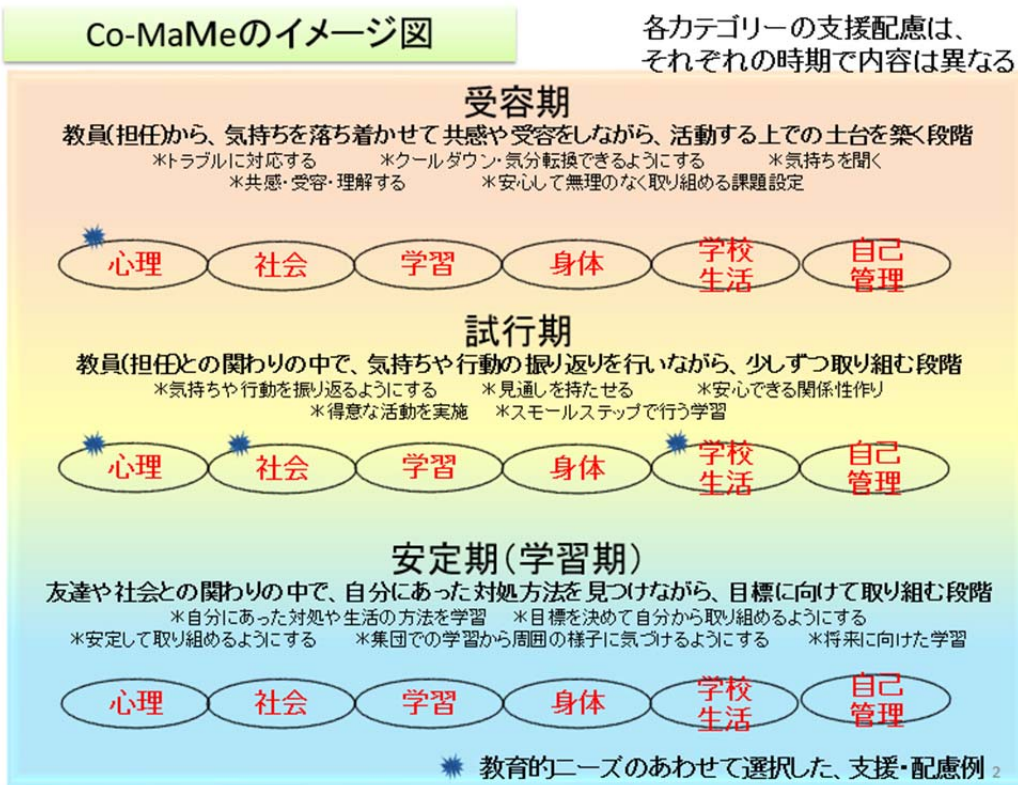
自己管理カテゴリーの教育的支援・配慮の概要

睡眠・生活リズム	朝起きられず遅刻してしまうことが多い	体調を把握する(4)、気持ちを聞く(4)、安心できる環境作り(3)、好きな活動を行うようにする(3)、時間や予定を意識させる(7)、少しずつ学習に参加できるように取り組む(6)、体調に合わせた学習を設定する(4)、将来に向けての活動設定(5)、様々な活動を実施する(4)、体調や生活のリズムの理解を深める(4)
食事	給食が食べられない、外食ができない	気持ちを聞いて受けとめる(2)、食べる場所を工夫する(2)、無理なく取り組めるようにする(3)、少しずつ相談する(2)、集団や友達と取り組む設定(2)、自分で食事が作れるようになる(2)
服薬	薬が手離せない、薬の管理が面倒	気持ちを聞く(2)、薬を飲んだか確認する(4)、薬を飲む理由を理解させる(2)
病気の理解	自分自身の病状を理解していない	気持ちを聞く(4)、安心できる環境作り(4)、スモールステップで取り組ませる(6)、無理なく取り組む活動設定(4)、体調を確認する設定(3)、相談しながら取り組ませる(3)、長期的な見通しをもてるようにする(5)、コミュニケーションを促す活動設定(4)、目標を設定して取り組ませる(4)
ストレスへの対処	ストレスへの対処、苦手なことからのがれたい	気持ちを聞く(7)、クールダウン、休憩できるようにする(5)、授業の参加方法を柔軟に変更する(3)、無理なく好きな活動ができるようにする(3)、スモールステップで行う学習設定(7)、相談できる環境作り(4)、解消する方法を伝える(4)、見通しをもたせる(3)、取り組む姿勢もほめる(3)、対処方法を考えて取り組めるようにする(13)、苦手なことに取り組む(7)、自分の特徴や状況を理解する(6)、ストレスを自分から伝えられるようにする(2)

<注> Co-MaMeとは？

「連続性のある多相的多階層支援【仮称】Continuous Multiphase and Multistage educational support」
 子どもたちの課題は、教育的ニーズのカテゴリーで言うと、一つではなく、例えば、心理と学習が関わるとい
 ように様々な側面（多相 Multiphase）があり、また、初期の対応が中心となる受容する時期から、社会生活を行
 う試行する時期、学習面を配慮する安定期というように様々な時期（多階層 Multistage）があります。なお、
 子どもたちが抱える課題（教育的ニーズの項目）の中でも、対応する時期が様々です。これら考慮した支援・配
 慮は、連続した中で考える必要があることを踏まえ、Co-MaMeとしました。[研究所のホームページに掲載予定]

また、年齢や環境の変化などで、子どもたちの課題も変わりますので、学習が進んだ時期に、改めて教育的ニ
 ーズのチェックを行いましょ。その上で、新しい課題に応じた「側面」や「時期」に応じた支援・配慮を提供
 していくことが望まれます。安定期が目標ではなく、子どもたちの状況・課題に応じた支援・配慮を整理する
 いうように、実態把握を大切にしましょ。



研修での活用例

研修での活用例については、

国立特別支援教育総合研究所ジャーナル 第6号、p18-23

平成28年度病弱班における研究成果普及活動の報告ー地域における「病気の子どもの教育支援ガイド(試案)」を活用した研修を中心にー

<http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/13006/j6-06houkoku-moriyama.pdf>

で報告しております。

既に、大阪府、岐阜県、群馬県、千葉県、宮崎県、山梨県で研修等での活用を行い、平成30年度は、神奈川県、大阪府で試行し、今後もよりよい教育支援ガイドを作成するためにセミナーを開催して、教育委員会または特別支援学校と試行しており、参加者の意見を頂く予定です。

特別支援学校で得たノウハウを、小中学校、高等学校の先生方にも活用して頂いております。

お問い合わせは、研究所の病弱教育研究班まで！

シートを用いた実際の研修例

研修の目的の説明

↓

自分の経験した児童生徒で教育的ニーズをチェックします

※からだの病気の場合；まず、子どもたちの教育的ニーズを記入して、5つのカテゴリで整理します。

※こころの病気の場合；まず、6つのカテゴリでチェックして、課題全体をまとめます

↓

先生自身が行ってきた支援・配慮を記載します

↓ ⇒ここで、グループワークを入れると効果的です。

病気の子どもの教育支援ガイドから（こころ編は試行版を作成しました、今後、普及版）

教育的ニーズに合わせた支援・配慮を確認します

↓ ⇒自身の支援・配慮と比較することで、視点を整理できます。

⇒再度、グループワークを入れると効果的です。

各グループで発表を行うことで、情報を共有します

※ 研究所が試行的に行った場合は、研究員が各発表にコメントしています。

※ 各地域で行う場合、管理職や専門家（特別支援学校教員等）の助言で、より一層、理解が深まります。

『病気のある子どもの教育支援ガイド（こころ編）』の案内

～発達障害の二次障害やメンタルヘルスを含む～

※心の病気（精神疾患及び心身症）のある、あるいは、予備的な状況（心の不調）にある児童生徒の教育的支援・配慮に関するガイドブック～すべての学校で活用できます！

※教育的な支援・配慮を行う基本は、教育的ニーズのアセスメント！

※研究所で開発した教育的ニーズ40項目に、それぞれ対応した、最新研究成果に基づく教育的支援・配慮を掲載！

資料（４）

支援・配慮例のイメージ図

—Co-MaMe より—

連続性のある 多相的多階層支援

Continuous Multiphase and Multistage educational support

Co-MaMe: こまめ

による【支援・配慮のイメージ図】

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

病弱班

項目内での支援の連続性

受容期

教員(担任)から、気持ちを落ち着かせて共感や受容をしながら、
活動する上での土台を築く段階

試行期

教員(担任)との関わりの中で、気持ちや行動の振り返りを行いながら、
少しずつ取り組む段階

安定期

友達や社会との関わりの中で、自分にあった対処方法を見つけて行いながら、
目標に向けて取り組む段階

A1. 不安・悩み (94)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・不安が強いため教室に入れず、強迫的な行為や暴言・暴力がある
- ・見通しをもてずに自信がなく、新しい活動を嫌がる
- ・心配が強くて経験の幅が広がらないため、進路に不安がある

受容期 (37)

* 気持ちを聞く(18)

- ・話したい時にじっくり聴き、認める
- ・イライラすること等、感情を言葉にできるようにする

* 共感、理解する(4)

- ・その時に出来ていることをほめる
- ・否定的な言葉を使わずに接する

* 無理なく好きな活動ができるようにする(15)

- ・本人が好きな活動を行う
- ・授業はゆったり進めて会話を増やし、学習量を減らす
- ・不安になりやすい場所、時間は避ける

試行期 (35)

* 相談しながら行えるようにする(15)

- ・行ったことを振り返り、落ち着ける方法や対処の仕方と一緒に考える
- ・不安や困難さを具体的に相談して共有していく

* スモールステップで行う学習設定(5)

- ・一つ一つ見本を見せたり、練習したりしてから行う
- ・少しずつ離れて一人で活動できるように見守る

* 見通しをもたせる(15)

- ・学校のルール・日程、活動内容を板書や手で視覚的に提示する
- ・初めて体験すること、場所、内容を詳しく説明

* 目標を設定して学習(9)

- ・目標を細かく設定し、達成したら変容に気付かせる
- ・目標をクリアできない原因やその対策を考えさせる

安定期 (22)

* 対処方法を考えて取り組めるようにする(8)

- ・ロールプレイを行い、適切な行動を考えて練習する
- ・あらかじめ対策を立てられるようなスキルを身につける

* 将来に向けて学習する(5)

- ・高校進学についての知識を身に付けられるようにする
- ・実習で困った場合の対応方法を身に付けられるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

A2. 感情のコントロール (159)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・すぐに感情が爆発して暴言、暴力をしたり、教室を飛び出したり、ひきこもりや自傷行為をしたりする
- ・教員の話の聞いたり、対話したりできず、不満を教員にぶつける
- ・イライラして不安になり授業に集中できず、友達と活動できない

受容期 (87)

* クールダウン、気分転換できるようにする(24)

- ・一人になりクールダウンできる場所へ行き、教室を離れる
- ・興味のあることをしたり大声を出したりして気分転換する

* トラブルへの対応(9)

- ・暴れたら周りの生徒も配慮し、複数の教員で対応する
- ・トラブルとなっている生徒とは離す

* 気持ちを聞く(32)

- ・気持ち、不満やイライラした事を言葉や文字で伝える
- ・信頼している教員が聞く

* 共感、理解する(8)

- ・暴言や暴力、悲しみ、苦しみを共感する
- ・一貫して支える存在であることを伝える

* 無理なく好きな活動ができるようにする(14)

- ・様々な活動を複数用意して、できないことを無理にさせない
- ・沢山好きな活動を設定して、楽しい気持ちになるようにする

試行期 (37)

* 相談しながら行えるようにする(32)

- ・不適切な行動になる前に相談する
- ・暴言や暴力、トラブル等の不適切な行動と一緒に考える

* ほめる機会を増やす(5)

- ・感情をコントロールできたときは意識的に褒める

安定期 (35)

* 対処方法を自分で考えて行えるようにする(27)

- ・リラックスやクールダウンできる方法を考えて行う
- ・一番落ち着ける環境や方法を考えて実践

* 集団や友達と取り組む設定(3)

- ・クラスで楽しめる活動を行い、コミュニケーション能力を高める
- ・アンガーマネジメントを友達と行っていく

* 自分から伝えられるようにする(5)

- ・辛いこと等を早めに教員に伝えて相談できるようになる
- ・イライラしたときどうするか児童生徒から伝える

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

A3. こだわり (36)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・一つのことが頭から離れず不安になり、自分で決まりをつくって暴言を吐く
- ・意識が一つのことに集中してしまい、思った通りに運ばずにイライラする
- ・一つのことにこだわってしまい、気持ちの切り替えができない

受容期 (17)

- * 気持ちを切り替えられるようにする(8)**
- ・行う回数や時間を決めたり、声掛けて次の行動を促す
- ・目の前のやりたいことからやるべきことに意識を向けさせる

- * 共感、理解する (5) ***
- ・否定せず、納得するまで待つ
- ・こだわっていることに共感する

- * 無理せずに行っていく(4)**
- ・確認など、こだわっていることを一緒にする
- ・過度の負担にならないように行動を制限する

試行期 (13)

- * 見通しをもたせる(10)**
- ・流れやスケジュールを伝え、いつまでやるかを明確にする
- ・トイレの時間、場所を相談する
- ・こだわっていることに時間をかけないように、事前にやるべき内容を確認する

- * 相談しながら行えるようにする(3)**
- ・何にこだわっているのか、他の方法はなにか相談する
- ・こだわりを共有する

安定期 (6)

- * 折り合いをつけられるようにする(3)**
- ・こだわりにどのように付き合うか支援する
- ・自分の特徴を理解し、折り合いのつけ方を身につける

- * 自分から取り組めるようにする (1)**
- ・こだわっていることを自分で対処できるようにする

- * 集団や友達と取り組む学習設定(2)**
- ・友達はどう思うか、周りは何をしている時か、周りを見て考えられるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

A4. 意欲・気力 (21)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・やる気がなくて表現が乏しく、登校できない
- ・見通しがもてずに自信がなく、学習に集中できない
- ・行事・集団で取り組む事が苦手で、目標がもてない

受容期 (6)

- * 無理なく好きな活動ができるようにする(3)**
- ・落ち着いて学習できる場所で取り組む
- ・楽しみにしている活動を取り入れる

- * 個別に語りかける(3)**
- ・気持ちを落ち着かせながら話す
- ・個別にほめる

試行期 (8)

- * スモールステップで取り組む学習設定(5)**
- ・簡単すぎず難しすぎない内容を学習する
- ・成功体験・達成感を少しずつ積み上げる
- ・登校できるまでを段階的に目標を示す

- * 行動や気持ちを振り返るようにする(1)**
- ・行動や発言等をカード等で振り返る

- * 生活を整えるようにする(2)**
- ・服薬・睡眠・食事のリズムを整える

安定期 (7)

- * 集団や友達と取り組む設定 (2)**
- ・個別対応から集団授業に取り組んでいく
- ・集団活動で成功体験・達成感をもたせる

- * 自分から伝えられるようにする (1)**
- ・やりたい活動を自分から言えるようにする

- * 長期的に目標を設定して学習(4)**
- ・退院を目標に学年を意識しながら学習する
- ・修学旅行を目標にして取り組む

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

A5. 自己理解(44)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・辛い気持ちを伝えられずにパニックになり、行動できない
- ・何をしたら疲れるか分からず、イライラしたことを振り返れずに、どんな気持ちか分からない
- ・気持ちを整理できず、自分を過大評価して、目標設定が難しい

受容期 (7)

* 気持ちを聞く(5)

- ・いつでも気持ちや本音を聞き、共感できるようにする

* 休息、クールダウンできるようにする(2)

- ・適宜休息をとり、パニックになったらクールダウンする

試行期 (15)

* 行動や気持ちを振り返られるようにする(6)

- ・面談でプリントに記入しながら、行動や気持ちを振り返る
- ・クールダウンした後に今後どうするか共に振り返る

* 見通しを持たせる(5)

- ・教員が手本を見せる
- ・スケジュールを見ながらこれからの行動をイメージする

* スモールステップで取り組む学習設定(4)

- ・スモールステップで取り組み、少しでも出来たときに褒める

安定期 (22)

* 気持ちの整理できるようにする(5)

- ・その気持ちになった具体的な場面や経緯を絵・言葉で整理できるようにする

* 自分の特徴を理解できるようにする(3)

- ・自分を知るために好きなこと・嫌いなこと、長所・短所等をまとめる

* 自分にあった行動や生活を理解する(5)

- ・生活リズムの見直して学習と休憩のバランスをとれるようにする
- ・体調に応じて活動を選択できるようにする

* 集団や友達と取り組む設定(2)

- ・他の生徒の意見・体験を聞き、他者を理解できるようにする

* 自分から取り組めるようにする(3)

- ・日常生活の場面で、自分から行動したり、気持ちを表現したりする方法を学ぶ
- ・配慮して欲しいことを考えて、言うようにする

* 様々な活動を実施する(2)

- ・進路学習や様々な行事に参加し、経験を増やす

* 目標を設定して学習する(2)

- ・目標設定を行い、クリアできたら評価していく

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

A6. 気持ちの表現(103)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・感情をため込み、怒って騒ぎ、暴言を吐く
- ・黙り込んで、イライラして暴れる
- ・嫌なことを伝えられず、気持ちと裏腹の表現をしたり、態度で表したりする

受容期 (53)

* 気持ちを聞く(35)

- ・個別に対応し、待ちながら少しずつ聞き、落ちつくまで側にいる
- ・表情等から気持ちを読みとり、早めに相談や対応をする
- ・気持ちをカードや例など選べるようにし、伝えられたらほめる

* 共感、理解する(7)

- ・話したときは本人の気持ちを真摯に受け止め、認めて、希望を満たす
- ・一緒に考えていくという姿勢を見せる

* 無理せずに行っていく(7)

- ・強くかわからず、無理に返事を求めない
- ・授業にとらわれず、落ち着くところに移る
- ・外に出て行った時は追いかけない

* 安心できる環境作り(4)*

- ・気持ちを発散したり、思いを伝えられるような人間関係を大切にしたい雰囲気作り

試行期 (35)

* 気持ちを伝えられるようにする(18)

- ・挨拶からはじめ、少しずつ感情を表現できるように促す
- ・気持ちを点数で表現したり、文字で表したりする
- ・教員が気持ちを表現して、言葉・タイミングを伝えていく

* 行動や気持ちを振り返るようにする(5)

- ・粗暴行為や言葉を振り返りながら、理由と一緒に把握していく

* 気持ちの整理できるようにする(12)

- ・話を聞きながら、原因や対処法を探る
- ・ゲーム感覚で、気持ちを表現して、気持ちの整理の仕方を学び、自分の感情に気づけるようにする

* 集団や友達と取り組む設定(3)

- ・色々な環境で人と接し、周りの人の感情に気付くようにする

安定期 (15)

* 表現方法の学習(10)

- ・発表する機会を増やし、助言しながら言葉を引き出していく
- ・国語等で学習を積み重ねて、語彙力や表現する方法を増やす

* 自分自身の内面と向き合えるようにする(2)

- ・連絡ノートや面談などで振り返り、伝え方を教えながら、より深く自分と向き合い、表現できるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

A7. 情緒の安定 (93)

課題

- ・大声を出して泣いたり、物に当たり、自傷行為をする
- ・クールダウンできずに、教室から飛び出したり帰ったりする
- ・過去のことを思い出してイライラし、安定した気持ちで過ごせず、授業に出られない

受容期 (50)

* クールダウン、気分転換できるようにする(16)

- ・一人になれる場所を確保して、落ちつくのを待つ
- ・怒りが頂点になる前に声をかけ、気持ちを切り替えられるようにする
- ・別室に移動して暴言・暴力が出ないようにする

* 無理なく好きな活動ができるようにする(13)

- ・やりたいもの、得意で達成感の持てるものに取り組む
- ・落ち着いて過ごせることを準備して選べるようにする
- ・不安な時は認めて、無理に学習や活動をしな

* 見通しをもたせる(10)

- ・日程や生活、学習の流れを書いた物を板書や机上に置き確認する
- ・活動を途中で止めたり、変更したりすることが出来ることを伝える

* 行動や気持ちを振り返るようにする(9)

- ・イライラする出来事の振り返り、「大丈夫」という声かけをする
- ・振り返りカードを見ながら毎朝、気持ちを確認していく

試行期 (24)

* 自分にあった行動の学習(11)

- ・同じパターン防ぐためアンガーマネージメントの手法等を学習していく
- ・自分で落ち着く方法を考えて行っていく

安定期 (19)

* 集中して取り組めるようにする(4)

- ・効率的に学習し、集中して取り組めるようにする

* 気持ちを聞く(15)

- ・原因や気持ちについて、時間をかけて丁寧に話を聞く
- ・無理せずに気持ちを文字や記号、カードで伝える

* 共感、理解する(3)

- ・考えを否定せず、話を聞き共感する
- ・言葉で伝えられたことをほめる

* 安心できる環境作り(3)

- ・イライラするものから離れて安心して過ごす

* 気持ちの整理ができるようにする(5)

- ・なぜそうなったか考えて整理して、どうすれば良かったかを考える

* 集団や友達と取り組む設定(2)

- ・友達と一緒に取り組む中で、成功や失敗を繰り返していく

* 感情を安定させる方法を学ぶ(2)

- ・感情のメカニズムを知り、コントロールする方法を学ぶ

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

A8. 気分の変動 (35)

課題

- ・機嫌が悪くなったり、イライラしたりして、支援を拒否する
- ・疲労などから気持ちが大きく変化し、登校が不安定になる
- ・気分によって授業に集中したり、活動に取り組めない

受容期 (16)

* クールダウン、気分転換できるようにする(6)

- ・一人になって、静かに見守り、落ち着いてから活動に取り組めるような環境を作る
- ・好きなことをして気分転換し、心理的な安定を保てるようにする

* 無理せずに行っていく(3)

- ・気持ちが落ち込んでいる時は無理はさせない

* 気持ちを伝えられるようにする(3)

- ・登校した時の気持ちや授業の参加の仕方を伝えられるようにする

試行期 (12)

* 行動や気持ちを振り返るようにする(4)

- ・振り返りながら、同じような状態になる時の対処を考える
- ・一日や一週間で振り返って、気分を印でつけたり、日記に書いたりする

安定期 (7)

* 自分から取り組めるようにする(4)

- ・状態を伝えて、自主的に学習する時間や場所を決められるようにする

* 話を聞く、共感する(4)

- ・話せるようになったらじっくり話を聞き、受け入れる
- ・悩みがあった時に相談できる信頼関係を構築する

* 安心できる環境作り(3)

- ・丁寧に声をかけながら、慣れた場所で一対一で学習する

* 相談しながら行えるようにする(2)

- ・登校時間や落ち着く場所で相談する

* 見通しをもたせる(3)

- ・登校時間を安定させ、日程を意識して行動できるようにする

* 集団や友達と取り組む設定(3)

- ・友達との活動を多く設定し、進んで参加したり、一定の気分を保つたりできるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

A9. 自信 (166)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・失敗を恐れ、間違えたときに自分を攻める
- ・過去の経験から自己肯定感が低く、新しいことなどはやる前から出来ないと決めてしまう
- ・挫折感が強く、目標が決められず、将来への意欲が持ちにくい

受容期 (34)

- * 無理なく楽しい活動を行う(17)**
 - ・自信のあることや失敗しない課題を設定
 - ・ゲーム感覚で楽しく行う
- * 安心できる環境作り(10)**
 - ・話しやすい安心できる雰囲気をつくる
 - ・失敗しても大丈夫という環境を作る
- * 共感、理解する(7)**
 - ・苦手なことを肯定的に受け入れる
 - ・気持ちを自由に表現させ受け止める

試行期 (53)

- * 相談しながら行えるようにする(11)**
 - ・不安や人間関係等の躓きを定期的に教員と相談する
 - ・良かった行動を振り返り、取り組む方法を本人と考える
 - ・悲観的にならず、不満や納得する方法を言葉にしてい
- * スモールステップで行う学習設定(20)**
 - ・小さな成功体験・達成感を積み重ねて、少しずつ自己肯定感が高まる工夫
 - ・適切な負荷で少し頑張ればできることを行う
 - ・個別の学習や小グループで少しずつ参加していく
- * 見通しをもたせる(5)**
 - ・事前に説明したり、やってみせて興味や見通しを持たせる
 - ・どこまでやればよいか分かりやすく示す
- * ほめられる機会を増やす(17)**
 - ・日常の小さなことを沢山ほめて自信をつける
 - ・「頑張ってるね」と声かけして、取り組んでいる様子もほめる

安定期 (79)

- * 自己評価を行えるようにする(10)**
 - ・毎日、一週間ごと等にチェック表で自己評価
 - ・自己評価から、自分の良さを知る
- * 目標を設定して学習する(6)**
 - ・できる目標を考えて達成し成就感を得る
 - ・目標を達成するためのプロセスも相談して行う
- * 自分から取り組めるようにする(4)**
 - ・活動を選んで主体的に行う
 - ・気持ちを自分から言葉にする
- * 集団や友達と取り組む設定 (20)**
 - ・係活動・日直等、周囲の中で役割を果たして人に役立ちたいという気持ちを育てる
 - ・行事での活動から充実感を共有して仲間意識を育む
- * 様々な活動を実施する(4)**
 - ・様々な活動を行い、チャレンジする意欲を高める
- * 学力を高める(6)**
 - ・集中して学習して、達成感や学力の高まりを感じられるようにする
- * 他者からの評価を得る(23)**
 - ・学校行事で発表し、他者からの評価を得られるようにする
 - ・人に喜んでもらえる活動を行う
- * 将来に向けての活動設定(4)**
 - ・就労に向けて練習をする
 - ・今後も悩みは続くが、解決できる力があつたことを伝える
- * 苦手なことに取り組めるようにする(2)**
 - ・苦手なことに取り組む、手だてを準備出来るようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

B1. 集団活動 (65)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・自身がなく、コミュニケーションが苦手で、みんなと一緒にいることが難しい
- ・集団での活動を嫌がり、一緒に活動できない
- ・集団の中でルールに従って、活動できない

受容期 (15)

- * 安心できる環境作り(8)**
 - ・安心できる環境設定
 - ・教員と一緒に活動して不安を和らげるようにする
- * 気持ちを聞く(2)**
 - ・話を良く聞く
 - ・授業内容に苦手意識や不満がある場合は、本人の希望を聞く
- * 休息、クールダウンをできるようにする(2)**
 - ・落ち着く場を作り、辛くなったらその場を離れられることを話しておく

試行期 (30)

- * 無理なく好きな活動ができるようにする(3)**
 - ・本人が好きな内容、分量や個別の課題を行う
- * 見通しをもたせる(13)**
 - ・集団活動の前に、不安が減るような情報を多く与える
 - ・見通しを視覚的に示して活動させる
 - ・事前にその場に行き、場所になれておく
- * 相談しながら行えるようにする(6)**
 - ・疲れた時に、どうするか本人と相談する
 - ・事前に集団に参加する時間、活動内容を相談する
- * 集団構成や時間を工夫する(4)**
 - ・参加する集団のメンバーや人数、時間を工夫する
- * 気持ちを振り返るようにする(3)**
 - ・思ったことや気持ち、体調、授業の様子を振り返る

安定期 (20)

- * スモールステップで行う学習設定(4)**
 - ・集団の人数、活動内容、時間の長さなど、できるところまで行うことで慣れていく
- * ルールを守るようにする(7)**
 - ・活動前や放課後にルールを確認したり、守れたか振り返る
- * 他の人を意識できるようにする(4)**
 - ・他人が緊張したり、間違った行動をした時の様子を確認して、他の人に嫌な感情をもたないようにする
- * 自分の気持ちに気付き行動できるようにする(5)**
 - ・緊張した時の行動や気持ちに気付き、ペース配分を考えたり、相手に合わせた行動をしたりする
- * 集団活動を通して学べるようにする(4)**
 - ・集団活動での個々の役割や大切さを知り、係や生徒会活動などへの参加意欲を高める

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

B2. 社会のルールを理解 (33)

Co-MaMeによる
【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・自分勝手な行動をして、嫌な思いをしたら粗暴行為をする
- ・イメージが持てず、自分でルールを作り上げてしまう
- ・学校のルールを守れず、破ってしまう

受容期 (7)

- * 無理せず行っていく(3)
・無理せず、本人が話すようになるまで根気よく待つ

- * 安心感できる環境作り(4)
・温かく受け入れる姿勢で、見守っていく

試行期 (16)

- * 分かりやすく掲示する(6)
・確認したルールをビジュアルにして掲示したり、ファイルに綴る

- * 相談しながら行えるようにする(5)
・事例を伝えながらルールについての意識を高めていく

- * 行動や気持ちを振り返るようにする(3)
・行動について理由を聞く等、行動を振り返る

- * スモールステップで行う学習設定(2)
・決まりやルールの確認の積み重ね、意識を少しずつ積み重ねていく

安定期 (10)

- * 自分から意識できるようにする(4)
・自分からしてはいけないことに気付き、意識できるようにする

- * 相手の気持ちを考えられるようにする(2)
・具体的な行動をあげて、相手の気持ちを考える

- * 将来に向けての活動設定(4)
・今後の生活をイメージして実際に活動しながら、ルールの理解につなげる

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

B3. コミュニケーションスキル (52)

Co-MaMeによる
【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・意思表示が難しく、暴言を吐き、トラブルになることがある
- ・人の話が聞けず、気持ちの整理が難しい
- ・相手のことを考えて発言できず、人と上手くかかわれない

受容期 (10)

- * 気持ちを聞く(3)
・興味のあることや好きなことなどから、気持ちを聞いていく

- * クールダウン、気分転換できるようにする(2)
・イライラしたり、怒ったりした時等は、落ち着ける場でクールダウンする

- * 安心して表現できる活動設定(5)
・話しやすい環境の中で、声掛けをしながら活動を行う

試行期 (20)

- * 行動を振り返るようにする(5)
・行動を振り返り、伝え方や言葉遣いを確認する

- * ほめて自己肯定感を高めるようにする(3)
・良い言葉遣いの時はほめたり、評価したりして自己肯定感を高める

- * 伝える方法を理解できるようにする(7)
・あらかじめ話す内容を考え、パターンを用意しておく
・見本を示して伝え方を理解できるようにする

- * 気持ちや考えを整理できるようにする(5)
・板書して聞き、どんなことを伝えたいのかを整理していく

安定期 (22)

- * 集団や友達と取り組む(7)
・そこにいるメンバーで、その時の発言について話し合う
・ペアや小集団で他者と関わる機会を増やす

- * 自分から取り組めるようにする(5)
・一人で振り返ったり、考えをまとめられるようにする
・参加できないことや理由を担任に伝えられるようにする

- * 状況に応じた行動ができるようにする(5)
・場面設定して適切なふさわしい話し方を考える
・学習や自由時間の中で、状況に応じた行動を身につける

- * 相手の気持ちを考えられるようにする(5)
・話した言葉によって相手がどう感じるか、考える機会をもつ
・相手の気持ちを考えながら文章や絵をかいて渡す

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

B4. 同年代との関係 (36)

課題

- ・相手をせめてトラブルを招く
- ・相手のことを考えた言動ができない
- ・同年代の生徒と良好な人間関係を気付くことが困難

受容期
(7)

***トラブルに対応する(2)**

- ・好ましくない言動があった時にすぐに対応する

***気持ちを把握する(2)**

- ・行動についてすぐ聞いたり、困っていることを連絡帳で把握したりする

***一緒に活動する(3)**

- ・他の生徒と活動する時は教員が横につき、一緒に遊んだり、ルールを確認したりする

相談しながら行えるようにする(3)

- ・どのようにすれば良いか、一緒に考える
- ・個別の面談で、友人関係について相談する

***行動を振り返るようにする(3)**

- ・行動について振り返り、状況や関係性を図などにする

試行期
(10)

***適切な発言を促す(4)**

- ・その場で不適切な言動はアドバイスをし、良い言動はほめて自信を持たせる

***状況に応じた行動や考えができるようにする(5)**

- ・ロールプレイでの失敗や嫌な言動を体験し、実際の場面を通して適切な行動や考えを身につける

***周りの人の気持ちを考えられるようにする(4)**

- ・絵や文章、具体的な場面から、多様な感じ方あること、自分の言動がどのように感じられているかを考える

安定期
(19)

***友達と気持ちを伝えあう設定(9)**

- ・どのような言動をすれば、友達と仲良く出来るかお互いの意見を伝えあう
- ・クラスで嫌なことは断って良いことを確認する

***将来に向けての活動設定(1)**

- ・就労に向けた取り組みの中で、自己理解を促す

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

B5. 家族との関係 (27)

課題

- ・親には甘えてしまい、暴言、暴力行為が出てしまう
- ・家族との関係をうまく築けず、家出を繰り返す
- ・家族に自分の気持ちを伝えることができない

受容期
(8)

***気持ちを聞く(4)**

- ・学習中に暴れてしまった時には、個別に話す時間を設ける
- ・疑問や気になることを声を出して伝えるように促す

***ストレスの軽減を図る(4)**

- ・感情をため込まないように常に声をかける
- ・好きなピアノを弾いたり、曲を聴いたりして気持ちを落ち着かせる

試行期
(10)

***家族と協力する(3)**

- ・父親に対して、子どもへ丁寧な語りかけをしてもらえるよう伝える
- ・こまめに母親へ連絡し、良かったことを伝えておく

***生活のリズムを整える(3)**

- ・学校を休まないように本人・保護者に声をかける
- ・家出による不登校のための生活リズムを整える

***気持ちを整理できるようにする(3)**

- ・気持ちと行動を振り返る
- ・家族に不満があった場合、どのように伝えるかを一緒に整理する

***ほめるようにする(1)**

- ・本人がいる場所でほめて、自分の良いところを知る

安定期
(9)

***生活に必要な技術・態度を身につける(3)**

- ・一人暮らしに必要なスキルを考え、取り組む
- ・毎日、登校する

***周りの人の良いところを考える(1)**

- ・友達や教員の良いところを探し取組を行う

***家族との関係改善を図る(5)**

- ・家族の愛情表現や気持ちを理解する
- ・家族と過ごしたり、手紙を書いたりして気持ちを伝えられるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

B6. 教員との関係 (73)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・教員の配慮が足りないと、不満を訴え、不信感もち暴言、暴力をする
- ・前の学校とのトラブルで大人に不信感があり、特定の人としか話さず、登校しない
- ・自分の思いが言えず、イライラして相手をすぐに否定してしまう

受容期 (38)

* 他の教員と連携して取り組む(8)

- ・苦手な教員とは当事者同士だけにならないようにする
- ・対応する教員を変えたり、教員で役割分担をして関わる

* トラブルへの対応をする(4)

- ・教員への暴言・暴力は、落ち着いてから養護教諭が対応する
- ・興奮すると不信感が増すので、教員は冷静に対応する

* 気持ちを受け止める(8)

- ・過去の学校のことは話題にせず、不信感を受け止める
- ・否定せず、不安を受け止められている感覚を持たせる

* 気楽に話せるようにする(5)

- ・日常会話を気楽に話していく
- ・接しやすい大人と話しやすい時間、場所で話す

試行期 (24)

* 信頼関係を築くようなかわりをする(9)

- ・寄り添うかわりをして、大人への不信感を減らす
- ・一緒に活動したり、話したりしながら信頼関係を築く

* 無理なく好きな活動ができるようにする(4)

- ・授業にでることを無理に促さず、好きな活動をする
- ・得意な活動や教員が話を教えてもらいながら取り組む

* 分かりやすく説明する(8)

- ・視覚的に分かりやすいように、カードや図を使って説明する
- ・本人の意見を聞きながら、分かりやすく説明する

* 相談しながら行えるようにする(6)

- ・個別に一緒に考える機会をもち、解決できたという経験を増やす
- ・気持ちを整理できるように書き出して、本人の気づきを促す

* 行動を振り返る(6)

- ・穏やかになった時に、気持ちが高ぶった時のことを考える
- ・振り返り、原因や問題点に気付くように促す

* 無理のない方法で取り組めるようにする(4)

- ・小集団で実態にあった内容、方法で学習する
- ・無理せずに授業に参加している

安定期 (11)

* 自分から気持ちを言えるようにする(6)

- ・どのような時にイライラするか言えるように促す
- ・不満や要求が言えるスキルを身につける

* 様々な人と活動できるようにする(5)

- ・接し方や、距離感、言葉使いを知り、多くの人と接することができるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

B7. 異性との関係 (26)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・異性が怖い、話せない、声を聞くだけでイライラする
- ・異性への興味が強く、平等な関わり方、適切な距離感が分からない
- ・相手が思い通りに応答してくれないと何もできない

受容期 (8)

* 異性と離す(4)

- ・言葉では難しいところがあり、異性との距離を工夫する

* 気持ちを落ち着かせる(2)

- ・気持ちが落ち着かない時は、一人になったり、信頼している教員が側にいたりする

試行期 (10)

* 同性との関係づくりをする(2)

- ・同性の教員が信頼関係を作って支える
- ・同じ学年の同性の友だちと小集団で取り組む

* 人との適切な距離を伝える(4)

- ・距離が近い様子が見られたら、適切な距離の取り方を伝える
- ・適切な声の大きさや話し方を伝える

* 無理なく集団で取り組む(3)

- ・意欲を大切にしながら集団に参加して所属欲求を満たす
- ・時間や場所を相談して無理なく集団参加する

* 少しずつ異性と取り組む(3)

- ・同性教員、異性教員の三名で取り組む
- ・異性と小集団で、同性教員も一緒に活動する

安定期 (8)

* 異性との関わり方についての学習(3)

- ・保健の授業等で異性との関係について学習する
- ・具体的に場面を取り上げ、異性との関わり方を考える

* 集団での役割を与える(1)

- ・生徒会など、リーダー的な役割を与える

* 他者のことを考えられるようにする(2)

- ・関わり方等がどう思われるかを客観的に伝え、相手の気持ちを考える

* 自分の気持ちについて考える(2)

- ・なぜ恐怖心を感じるのか過去を振り返りながら考える

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

B8. 他者への信頼 (54)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・他者を怖がり誤解して、相談したり、信頼したりしない
- ・他の人と会話をしたり、気持ちを話したりできず、ストレスを貯める
- ・他の人との関わり方が分からず、集団活動が苦手

受容期 (30)

* 気持ちを聞く(11)

- ・気持ちや意見を最後まで聞き、受け止める
- ・趣味や好きなものから聞き、心理的な安定を図る

* 信頼関係をつくるようにする(4)

- ・本人の気持ちに寄り添い、心のバリアを解く
- ・教員が裏切らず、人を頼る経験を積み重ねていく

* 安心できる環境設定(5)

- ・関わる人を一定にして、行動を共通理解をしながら対応する
- ・定期的に面談を行い、甘えても良いという環境を作る

* 人と関わらずに過ごせるようにする(5)

- ・無理に関わらずに、一人の時間をもてるようにする
- ・他の生徒と無理に関わらせず、時差登校、個別指導を行う

* 無理なく好きな活動ができるようにする(5)

- ・本人に聞きながら、楽しい経験を沢山する
- ・興味が同じ友だちとゲーム等で仲良く遊べるようにする

試行期 (20)

* 相談しながら行えるようにする(3)

- ・どうすればできるか一つ一つ相談する

* 振り返りをする(3)

- ・面談や授業で振り返りながら整理して、次の取組を考える

* 他者と関わられるようにする(8)

- ・他の生徒と作業をするなかで自然に関わられるようにする
- ・無理のない範囲で集団活動の参加を促し、人と関わる楽しさを体験する

* 見通しをもたせる(4)

- ・事前に授業や行事の内容や集団について知らせる
- ・面談を通して学校生活の見通しをもたせる

* 自信がもてるような学習設定(2)

- ・無理せず得意な学習に取り組み自己肯定感を高める

安定期 (4)

* 相手の気落ちを理解できるようにする(1)

- ・相手の気持ちを理解する

* 苦手なものに取り組む(2)

- ・面談を通して自分の課題を明らかにして取り組む

* 自分から気付くようにする(1)

- ・教員が伝えずに、自分から気付いて取り組めるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

B9. 他者への相談 (35)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・授業中に嫌なことがあると何も言わずに出て行ってしまったたり、暴れたりする
- ・体調が悪い時、困ったことがあった時、相談できない
- ・自分の体調や心情を伝えられない

受容期 (16)

* 気持ちを聞いて受け止める(5)

- ・本人の要求や不安感を聞き、受け入れられる経験を重ねることで安心感を持たせる

* クールダウン・休息ができるようにする(3)

- ・心身の状態に応じて、見学したり、別室に移動したりして休息やクールダウンができるようにする

* 安心して表現できるようにする(5)

- ・ボードに記入したり、カードを見せたりする等で表現しやすくして、表現できたらほめる
- ・苦手なことや失敗した時などは、表情や態度から早めに声掛けして相談する

* 信頼関係をつくるようにする(3)

- ・何気ない会話や面談を重ねて、信頼関係を築いていく

試行期 (12)

* 相談しながら行えるようにする(3)

- ・定期的に面談を行い、相談しながら行うことに慣れる

* 見通しをもたせる(3)

- ・苦手なことや困りそうなことは、事前に個別に取り組んだり、相談して不安感を減らす

* 気持ちや行動を振り返るようにする(6)

- ・実際にあったことを振り返って、どうすれば良かったかを考えていく

安定期 (7)

* 自分の特性から目標を設定させる(3)

- ・自分の特性を理解して、できる目標を設定して取り組む

* モデルケースから行動を考える学習設定(1)

- ・成功や失敗したモデルケースをあげて適切な行動を考える時間をもうける

* 自分から伝えられるようにする(3)

- ・自分からやりたいことや、支援して欲しいことを伝えられるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

B10. 他者理解 (42)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・自分の中で他者のイメージを作り上げて見る傾向があり、強い口調で要求を伝える
- ・他人や自分の良いところが分からず、同世代の友だちと関わらない
- ・周囲の状況が理解できず、周りの友達の表情や言動から気持ちを読み取れない

受容期 (7)

* 安心できる環境設定(4)

- ・厳しくせずに落ち着いた態度で接し、楽しく活動するようにする

* 他の人と関り方を工夫する(3)

- ・教員や仲の良い友達と遊び、苦手な人とは空間的に距離をとるようにする

試行期 (15)

* 適切な他者との関わり方や感情を促す(5)

- ・その都度、適切な感情の持ち方、行動や発言の仕方、他者との距離の取り方を伝える

* 気持ちや行動を振り返るようにする(4)

- ・嬉しかったり嫌だったりの時の気持ちや、問題行動について振り返る機会を設ける

* 見通しをもたせる(3)

- ・自分がこれから行う行動や、学習内容を掲示する

* 友達との関わり方を工夫する(3)

- ・ペアやグループを作るときに教員がフォローして、友達と関わりやすくする

安定期 (20)

* 友達と気持ちや意見を伝えあう設定(8)

- ・相手の良いところ、自分の良いところをカードに書き、理解し合う活動を行う
- ・意見を通そうとしたときは、友達の意見を聞くように促す

* 自己評価や目標を掲示して取り組む(2)

- ・目標や自分の特徴等を文字で書いて掲示する

* 相手の気持ちや特徴を考えられるようになる(6)

- ・相手のことを意識して、相手が言われて不快となる表情をした時の気持ちを理解する
- ・相手は異なる考えをもっており、自分の思い通りにはならないことを知る

* ルールについて理解する(4)

- ・ルールを具体的に示して、何のためにルールがあるのかを考える

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

C1. 学習状況 (59)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・不登校の期間が長く、学習への苦手意識や拒否感が強い
- ・学習空白があり、下学年の内容や学習方法を指導する必要がある
- ・学習への意欲がわかず、不得意な教科に取り組まない

受容期 (10)

* 無理なく好きな活動ができるようにする(5)

- ・やりたくないことは無理強いせず、ゲームや制作活動など、楽しんで取り組める活動を行う

* 安心して取り組める設定(5)

- ・苦手な生徒とは離し、短時間で、個別に取り組む
- ・サブの教員と情報共有を十分にいき、こまめに声をかける

試行期 (38)

* 見通しが持てるようにする(7)

- ・学習の見通しを視覚的に示す
- ・個人用に作った学習の目安が分かるプリントを使用する

* 分かりやすく提示する(4)

- ・本人が見やすいように教材や場所を工夫する
- ・選択できるように絵カードや写真を使う

* 出来る内容を学習する(8)

- ・出来る内容を学習し、自信をつける
- ・理解度を把握し、出来そうなところから進める

* ほめる機会を増やす(5)

- ・出来たときに大きな動作でほめる
- ・教員と生徒と一緒に喜ぶ機会を増やす

* スモールステップで学習する設定(9)

- ・細かく学習内容を区切り、達成感を感じやすくする
- ・毎時間、個人用に負担の少ないプリントを作成して行う

* 取り組みやすいように教材を工夫する(5)

- ・タブレット端末やパソコン等で楽しんで取り組めるように工夫する
- ・プリントは穴埋めや吹き出しなどで取り組みやすくする

安定期 (11)

* 将来に向けて取り組む(6)

- ・地域に戻った時や検定など、目標を決めて取り組む
- ・何のために学習するか考えながら取り組む

* 宿題や補習を行う(5)

- ・つまずいているところは放課後や昼休みに学習する
- ・担任が家庭学習を確認して、アドバイスなどのコメントをする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

C2. 処理能力 (36)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・沢山の課題を目にあたりにすることでパニックになる
- ・不登校経験があり、書くのが遅く、板書を写すのが苦手
- ・聞きながら書く等の二つの作業を同時に行えない

受容期 (10)

* 十分な時間をとる(3)

- ・できる限り待つ
- ・できるまで十分な時間をとる

* 安心できる環境設定(3)

- ・個別に話をじっくり聞き、ほめる
- ・失敗しても大丈夫と伝える

* 無理なく取り組める活動を設定(4)

- ・教員の話聞くことから取り組む
- ・ノートの記入は減らし、行えているか確認しながら進める

試行期 (18)

* 作業を絞る(8)

- ・見る、聞く、書く、考える活動を分けて行う
- ・プリントや板書等を穴埋めや短文にして、書く量を減らす

* 学習内容の見通しを持たせる(7)

- ・授業の流れを毎回、同じにして学習する
- ・記入する場所や音読する場所を短くはっきりと伝える

* 意欲を生かしながら取り組む(3)

- ・取り組む姿勢もほめて、意欲をいかして取り組む

安定期 (8)

* できることを増やす(5)

- ・聞きながら考えて書くことを行い、書く量を増やす
- ・待つてほしい時に、上手に耐えられるようにする

* 友達の様子を知る(3)

- ・周りの様子を見ながら活動できるようにする
- ・友達の話聞き、人にはそれぞれ考えや個性があることを知る

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

C3. 聞き取り・理解力 (50)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・聞いていなくても分からないと言えず、ストレスをためて学校に来ることができなくなる
- ・指示や説明の聞き取りが難しく、集団活動についていけない
- ・文法や文章題を理解できない

受容期 (18)

* 分かりやすく伝えるようにする(7)

- ・わかりやすい言葉でゆっくり話す
- ・表情を見ながら、丁寧にやりとりする

* 気持ちを理解する(5)

- ・困っていることや不安なことを聞いて受け止める
- ・分からないことが話しやすい雰囲気作りをする

* 安心できる環境設定(6)

- ・注意などを極力しないで認める
- ・不安な時は気分転換して、無理強いしない

試行期 (27)

* 分かりやすく視覚的に教材を工夫する(10)

- ・色や下線、太字で示したり、イラストを使って学習内容を視覚的に分かりやすくする。

* 見通しをもたせる(4)

- ・絵カードで次の活動をその都度、確認する
- ・個人用クリアファイルに、その時間に取り組みプリントを入れておく

* 説明や活動を分かりやすく説明する(10)

- ・相手の理解を確かめながら、少しずつ説明する
- ・活動内容を細かく分けて、整理して伝える

* 自信をもてるようにする(3)

- ・問題が出来たらすぐにほめて自信をもたせ、次の課題もできると思わせる

安定期 (5)

* 適切な発言ができる習慣を身に付ける(3)

- ・相手の会話を聞いた後に発言する習慣を身に付ける
- ・困る前に、分からないことが発言できるようにする

* 目標を決めて取り組む(2)

- ・目標となる絵や図、友達の言動から学び、行動できるようになる

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

C4. 読み・書き (73)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・読むことや書くことに強い抵抗感があり取り組まない
- ・不登校等のため、学年相応の読み書きが定着していない
- ・文章を読んだり、漢字を覚えたりすることが苦手

受容期 (7)

- * 丁寧に様子を見ながら取り組ませる(5)**
- ・十分に時間をとり、個別に配慮しながら進める

- * 無理なく好きな活動から取り組むようにする(2)**
- ・好きな絵本や動画、漫画を使って活動する

試行期 (52)

- * 楽しみながら学習できるようにする(7)**
- ・ゲーム感覚、身体のアクション、言葉遊び、映像などを取り入れて楽しく言葉に親しむ

- * ほめて自信をつけさせる(5)**
- ・読んだり、書いたりしようとした時にほめ、できた時にはさらにオーバーにほめる

- * 書く負担を減らして学習できるようにする(19)**
- ・プリントはカッコ内を埋めたり、シールを貼ったりして完成できるようにする
- ・マスが大きしたり、ひらがなで書いて良いことにする
- ・書くことを重視せず、見たり聞いたりして学習するようにする

- * 視覚的に読みやすく工夫する(10)**
- ・板書は文字の大きく色を使って見やすくする
- ・カードをつかったり、プリントにルビやイラストを多く使って、分かりやすくする
- ・プリントを見るだけで学習の流れが分かるようにする

*** スモールステップで取り組む学習設定(11)**

- ・定着している漢字を使って読むことを継続して行う
- ・本人ができそうと思う内容をスモールステップで取り組む

安定期 (14)

- * 読みやすい字が書けるようにする(5)**
- ・マス目に大きく分かりやすく書くように伝える
- ・毛筆や硬筆で大きく丁寧に書く

- * 漢字や文字への興味関心を高める(4)**
- ・漢字の成り立ち、辞書をひいて意味を知ることから興味関心を高める

- * 意欲的に学習できるようにする(5)**
- ・学習成果が自分で分かるに準備し、自分で考えて問題を解いていく
- ・意欲的に漢字テストの宿題を行う

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

C5. 記憶力 (13)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・忘れると自分を責めたり、興奮したりする
- ・忘れることに対する不安から焦燥感が強くなる
- ・学習したことをすぐに忘れてしまう

受容期 (2)

- * 心の安定を図る(2)**
- ・心の安定につながる楽しい体験を行う
- ・忘れて不安になりそうな時は、教員がメモしておく

試行期 (7)

- * 忘れない方法で取り組む(5)**
- ・忘れないためにメモを取り、机に貼る
- ・必要な内容はノートに書き、見返すようにする

- * 与える情報を減らす(2)**
- ・伝える言葉の量や学習の量を減らす
- ・作業の手順を単純に示して、貼っておく

安定期 (4)

- * 自分から取り組めるようにする(2)**
- ・学習課題や手順などは、必要な時に自分で取り出して見るようにする

- * 将来に向けて取り組む(2)**
- ・メモを取るスキルが退院後も必要となることを確認して取り組む

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

C6. 注意・集中 (25)

課題

- ・イライラして座ってられず、教室から走って出て行ってしまふ
- ・授業に集中することができず、関係のない話を始める

受容期
(9)

*** 刺激を減らす(3)**

- ・教室のドアは閉め、黒板周辺は特に配慮して、掲示物も必要最小限にして刺激を減らす

*** 不適切な行動への対応(2)**

- ・教室から飛び出した時は、その場で振り返り、なぜ危ないか確認する

*** 無理なく好きな活動ができるようにする(4)**

- ・興味のある学習内容を2～3つ用意する
- ・雑談等、やりたいことを行い、休憩時間を設ける

試行期
(10)

*** 見通しをもたせる(4)**

- ・この時間で学習する内容やプリントを事前に示すなど、視覚的に見通しを持てるようにする

*** 興味をもてるように工夫する(4)**

- ・生徒が楽しめる内容に活動を工夫する
- ・状態により、話を増やしたり、書く時間を増やしたりする

*** 活動を短時間にする(2)**

- ・課題を短時間で区切り、集中できる短い時間で学習する

安定期
(6)

*** 集中力を伸ばす(4)**

- ・授業、生活の構造化を図り、安定して取り組めるようにする
- ・好きな活動から難しい活動へ課題を変化させて、集中できる時間を伸ばす

*** 自分から取り組めるようにする(2)**

- ・活動以外のことにこだわっている時は、自分から活動にもどれるようになる

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

C7. 学習への意識 (39)

課題

- ・教科学習全般に拒否的な態度で、苦手な教科は参加できずに逃げ出す
- ・学習に集中できず、取り組めない
- ・新しい活動には挑戦しようとしていない

受容期
(12)

*** 無理なく好きな活動ができるようにする(7)**

- ・無理せず、絵本を読んだり、好きな話題を話したり、ゲーム等をしたりする
- ・読み書き等の学習はしない
- ・会話をしやすい環境をつくり教員と話をする

*** 個別に取り組めるようにする(5)**

- ・別室を用意する
- ・個別に支援する教員がついて取り組む

試行期
(13)

*** できる内容を学習する(9)**

- ・苦手な教科は無理をさせず、やれそうだと思う内容を用意する
- ・下学年の内容を学習する等、本人に適した課題を行い抵抗感を少なくする

*** 興味を持てるように授業を工夫する(4)**

- ・親しみのもてる言葉、イラスト、キャラクター等を使って興味をもてるようにする
- ・ゲーム方式やパソコンを使い取り組みやすくする

安定期
(14)

*** 自分から取り組めるようにする(4)**

- ・本人が前向きに取り組める内容を学習し、自ら学ぼうとする意欲を育む

*** 苦手なことに取り組めるようにする(4)**

- ・苦手意識の強い内容もやればできるという喜びを味わえるようにする

*** 将来に向けての活動設定(6)**

- ・企業での就労体験から、将来への見通しをもたせる
- ・入試問題を使って、高校進学への意識を高める

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

C8. 経験 (27)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・自信がないことをせず、一つ一つに時間がかかる
- ・友達と一緒に رفتり、様々な活動を行ったりすることが苦手
- ・将来に向けた新しい体験をしない

受容期 (3)

- * 無理なく活動できるようにする(3)**
- ・出来る範囲で焦らずじっくり取り組み、達成感を得る
- ・個別指導する

試行期 (5)

- * スモールステップで取り組む学習設定(3)**
- ・活動中や活動後に称賛し、自信や達成感を持たせる
- ・一人でを行う前に少しずつ担任と一緒にを行うようにしていく

* 不適切な行動の対処を考えられるようにする(2)

- ・不適切な行動は、何がいけなかったかを確認し、相手の気持ちを聞く

安定期 (19)

- * 集団や友達と取り組む設定(7)**
- ・コミュニケーションできるゲームを通して友人とのかかわり方を身に付ける
- ・行事で学級での役割を担い、みんなでできるようにする
- ・総合的な学習の時間での調べ学習の発表を設定する

* 様々な活動を実施する(3)

- ・多くの活動を設定し、経験したことのないことを行うことで、好きなことを増やす

* 将来に向けての活動設定(9)

- ・段階を踏んで、教員と公共交通機関の利用を練習する
- ・職場体験を行い、進路を意識させる

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

D1. 身体症状・体調 (28)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・不安や苦手なことがあると、頭痛や腹痛を訴えて早退する
- ・自分の体調が分からない
- ・気持ちを言葉で周囲に相談できない

受容期 (13)

- * 気持ちを聞く(5)**
- ・不安なことは何かじっくりと聞く
- ・担任が気軽に話せる居場所となる
- ・会話から気持ちの共有を図る

* 体調を整える(2)

- ・水分をとって、休みながら行う
- ・ストレッチなどの軽い運動を一緒に行う

* 不安を感じないようにする(3)

- ・痛みへの焦りや罪悪感を感じないようにする
- ・不安になる要因を取り除く

* 気持ちをそらす活動をする(3)

- ・本人の好きなことを楽しんで行い、痛みが出ないようにする
- ・運動を行い頭痛や腹痛から思考をそらす

試行期 (8)

- * 気持ちや身体の状態を表現する(4)**
- ・気持ちをノートに書き出す
- ・不安なことを言語化できるようにする

* 見通しをもたせる(2)

- ・不安が大きい初めてのことは、見通しがもてるように提示する
- ・事前に対策や対応を教える

* 身体の状態を知る(2)

- ・血圧等を計ったり、身だしなみチェックシートでチェックしたりする

安定期 (7)

- * 身体の変化への対策を考える(5)**
- ・かゆみが出た時の対策を自分でまとめて活用できるようにする
- ・自分でチェックして何ができて、何ができていないかを考える

* 自分の気持ちに気付けるようにする(2)

- ・辛くなりやすい状況を客観的に考え、気付けるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

D2. 巧緻性 (18)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・道具の操作が苦手で創作活動をやろうとしない
- ・不器用で細かい作業が苦手

受容期 (3)

- * 失敗しない簡単なものを行う(3)**
- ・失敗したと感じやすいので、失敗しないように得意な活動を行っていく

試行期 (12)

- * 活動の手順を分かりやすく示す(4)**
- ・図や写真を使って活動内容を分かりやすく示し、スムーズに進めるようにする
- ・活動と休憩をはっきりと分けて見通しをもたせる

- * 身体を動かしながら取り組む(3)**
- ・掃除道具や雑巾を使って清掃活動をする
- ・調理道具を使ってお菓子などを作る

- * 興味や自信がもてるが持てる学習設定(5)**
- ・活動しやすい道具や材料を使って達成感をもたせる
- ・興味のある得意な活動を行い自信を持たせる

安定期 (3)

- * 作品の評価が得られる設定(3)**
- ・作った手芸品を売るか活動を行う
- ・他者から評価を得られるようなテーマを設定する

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

D3. 動作・体力 (42)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・不登校が長い場合、生活に必要な体力がない
- ・体力がなく、動きがぎこちなく、運動に苦手意識がある
- ・自分の体力やボディイメージが把握できていない

受容期 (9)

- * 無理なく活動できるようにする(6)**
- ・失敗しても気にせず、できていることをほめながら行う
- ・疲れたら休みながら、教員も一緒に行う

- * 好きな活動を行えるようにする(3)**
- ・音楽を流しながら、ゲームや遊び等の好きな活動を行う

試行期 (26)

- * 動作を分かりやすく示す(6)**
- ・動作を写真や絵で視覚的に示す
- ・行う前に動作のポイントを明確に伝える

- * ほめて自信をつけさせる(5)**
- ・成功した時に言葉やシールで分かりやすくほめて、もっとやりたいと思わせる

- * 分かりやすい活動を設定(5)**
- ・動きが複雑でなく、ルールの分かりやすい活動を行う
- ・体育の授業の流れを同じにして行う

- * 楽しんで身体を動かせるようにする(4)**
- ・遊びを通して体力や感覚を育てるようにする

安定期 (7)

- * 様々な活動に取り組む(3)**
- ・スキーや水泳、球技等、様々な競技を行う
- ・流行しているダンスを取り入れる

- * 身体のバランスを育てる活動設定(6)**
- ・ストレッチやダンスなどの軽い運動を毎時間行う
- ・ブランコやトンネルくぐり、平均台等、平衡感覚を育てる教材を使う

- * 日常的に自分から行えるようになる(4)**
- ・自分自身が取り組みやすい活動を考えて行えるようになる
- ・休み時間や放課後などに日常的に行い、上達できるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

D4. 多動性 (65)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・イライラしやすく、思い通りにならないと寝転んだり、教室を飛び出したりする
- ・じっと座っていることができず、すぐに気が散って、衝動的に動いてしまう
- ・他の生徒と同じペースで活動できず、指示を聞かずに自分のペースで行動してしまう。

受容期 (13)

* 無理せず気持ちを受け止める(6)

- ・大声で叱ったりせずに本人の話を聞く
- ・じっとしていられなくも無理強いをせず、気持ちを受け止める

* 好きな活動ができるようになる(4)

- ・落ち着いて取り組める好きな活動をしたり、おしゃべりをしたりする

* クールダウン・休憩ができるようになる(3)

- ・気持ちが落ち着かずに暴言等があった時は、集団から離してクールダウンする

試行期 (44)

* 見通しを持たせる(9)

- ・スケジュールや活動内容を提示したり、タイマーを使用したりする等、視覚的に分かりやすく示す
- ・授業のパターンを一定にし、活動の順序を細かく伝える

* 身体を動かしながら学習する設定(9)

- ・身体を動かす、作業や体験学習を取り入れる
- ・黒板に書きながら一緒に立ち、話しながら学習する

* 適切な行動を分かりやすく伝える(11)

- ・不適切な行動や話を聞けない時はカード等で視覚的に伝える
- ・学習に集中する時、話をして良い時を具体的に説明する

* 振り返りをする(3)

- ・感情が抑えられなかった時や着席して学習できた時には改善点等を丁寧に振り返る

* 無理なく活動できるようにする(6)

- ・楽にできる活動を行い、少しずつ着席している時間を増やす
- ・飽きないように多様な課題を沢山準備する

* ほめる機会を増やす(6)

- ・待てた時や穏やかに過ごせた時は大いにほめる
- ・成功した時は細かく丁寧にほめ、自信をもって取り組めるようにする

安定期 (8)

* 集団活動から学べるようになる(5)

- ・友だちに教える役割や準備・片づけをする役割を与える
- ・友だちの気持ちを話し、相手の立場になって考える

* 自分から取り組めるようになる(3)

- ・与えられた課題が終わった時は、自分から伝えて次の行動ができるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

D5. 感覚過敏 (38)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・大きな音や騒がしい音、視線が怖いので教室に入れない
- ・暑さや明るさ、衣服がすれる感覚が我慢できず、イライラする

受容期 (20)

* 気持ちを聞く、受け止める(2)

- ・不安な気持ちを十分に聞き、不快感に対する恐怖心を受け止める

* 道具を工夫して不快感を減らす(9)

- ・ヘッドフォンをして大きな音や不快な音に対応する
- ・保冷剤等での暑さ対策をしたり、衣服を工夫して皮膚への刺激を減らしたりする

* 活動する空間や時間を整える(9)

- ・それぞれの不快感に対応して、教室の音やにおい、明るさを調整する
- ・不快感を感じないように場所や時間を配慮する

試行期 (14)

* 相談しながら行えるようになる(3)

- ・個別に面談を丁寧に行い、対処方法を相談しながら取り組む

* 見通しをもたせる(3)*

- ・活動の時間や内容、周りの反応を事前に知らせて見通しをもたせて行動させる

安定期 (4)

* 自分で考えて行えるようになる(4)

- ・自分で集団活動の参加方法を考えたり、伝えたりできるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

E1. 見通し (36)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・予定が自分の思い通りにいかないと、暴力・暴言が出る
- ・はじめてのことや見通しのもちにくい活動に参加できない、不安定になる
- ・急な変更があると、受け入れられずに落ち着きがなくなってしまう

受容期 (5)

* 気持ちを聞く(2)

- ・分からないことや不安なことを
安心できる人に話せるようにする

* クールダウンさせる(1)

- ・気持ちが落ち着くまで時間をとる

* 活動の様子を見させる(2)

- ・不安がある時は、はじめは見学して様子を知る

試行期 (23)

* 予定や持ち物を確認させる(9)

- ・朝や帰りに一日の時間割、活動内容、
予定変更、持ち物を確認する

* 行う活動内容を説明する(2)

- ・どんなことも事前に内容、終了時間
等を十分に説明する

* 分かりやすく視覚的に提示する(9)

- ・メモ帳やホワイトボード等に記入して、視覚的
に確認できるようにする
- ・タイマー等を活用して時間を分かりやすく示す

* 気持ちや体調から無理せずに行う設定(3)

- ・努力や疲労の程度について、振り返りながら活動を
設定していく

安定期 (8)

* 長期的な予定が分かるようにする(6)

- ・一週間や一か月ごとの予定表を配布して記入
させ、長期的な見通しをもたせる

* 将来に向けて取り組む(2)

- ・退院や卒業、入試に向けて取り組む

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

E2. 物の管理(42)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・物が見つからないため不安になって学校にいけない
- ・忘れ物が多く、プリントや学習道具をすぐになくしてしまう
- ・整理整頓ができず、必要なものが出てこない

受容期 (2)

* 個別に気持ちを聞いて受けとめる(2)

- ・個別に話を聞き、物をなくしてしまう不安を受
けとめる

* 視覚的に分かりやすくする(7)

- ・整理された状態を写真に撮り、分かりやすくする
- ・持ってくる物が書かれた一覧表でチェックしなが
ら準備をする

* 整理する時間の設定する(2)

- ・プリント等、机上の物を整理してしまう時間を保障する
- ・朝、昼、帰る前等、時間を決めて整理を行う

試行期 (33)

* 予定を確認しながら取り組ませる(4)

- ・連絡帳に明日の持ち物や時間割を記入し、朝、
再度、確認する

* ほめて達成感をもたせる(3)

- ・忘れ物をしなかった時はシール等でほめる
- ・スモールステップで整理に取り組み、成功体
験をもたせる

* 整理方法に取り組ませる(10)

- ・物を置く場所を決め、教科別等でボッ
クスに分けて収納する
- ・教科ごとにプリント用のファイルを作り、
混ざらないようにして整理する

* 教員と一緒に(7)

- ・個別に必要な物をどこにしまうか等、相談しながら一
緒に整理する
- ・片付けや落とし物など、声かけしながら取り組ませる

安定期 (7)

* 自分でできるようにする(5)

- ・自分で持ち物を準備したり、決まった場
所に片づけたりする習慣を身につける
- ・プリントは自分で判断して捨て、判断で
きない物は尋ねることができるようにする

* 定期的に振り返りする(2)

- ・定期的に振り返りをして、整理出
来ていることを確認させる

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

E3. 登校・入室への抵抗感(33)

Co-MaMeによる
【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・学校に行くことや、人と関わることが怖く、同学年の友だちに全く会えない。
- ・一对一の取組はできるが、教室に入れず、集団の活動ができない
- ・地元校での登校に抵抗が強い

受容期 (16)

- * 学習場所を柔軟に変更する(9)**
- ・他の児童生徒と会わない場所等、実態に合わせて場所を変更する
- ・体調に合わせて休憩しながら個室で学習する

- * 共感、理解する(2)**
- ・気持ち受け入れて、信頼関係を築いていく

- * 無理なく好きな活動ができるようにする(5)**
- ・簡単で好きな内容で学習したり、楽しい経験をしたりする

試行期 (12)

- * 相談しながら行えるようにする(5)**
- ・イライラした時の気持ちや学習内容、座席の位置等を相談していく

- * 友達と関わるようにする(2)**
- ・友達の様子を伝えたり、友達が登校を誘ったりする

- * 少しずつ集団活動に参加していく(5)**
- ・小集団や時間を決めて少しずつ参加していく

安定期 (5)

- * 自分から伝えられるようにする(1)**
- ・体調が悪い時、イライラする時は自分から伝えられる

- * 役割を持たせて活動する設定(1)**
- ・学級で取り組んでいることに役割をもたせる

- * 将来に向けて取り組む(3)**
- ・将来の自分を想像し、地元の学校での生活習慣に必要な力を身につける

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

F1. 睡眠・生活リズム(44)

Co-MaMeによる
【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・昼夜が逆転しているため、家族の生活を圧迫し、登校時間を守れない
- ・学校で寝てしまったり、多くの活動が出来なかつたりする
- ・自分のやることを順序よくこなせず、やるべきことを後回にしたり、時間を守れなかつたりする

受容期 (14)

- * 体調を把握する(4)**
- ・体調や睡眠時間、服薬等を記録して把握する

- * 気持ちを聞く(4)**
- ・コミュニケーションや面談を多くして、不安等の気持ちを把握する

- * 安心できる環境作り(3)***
- ・人間関係など、安心して過ごすための環境を整える

- * 好きな活動を行うようにする(3)**
- ・興味のある活動を多くして心理的安定を図る

試行期 (17)

- * 時間や予定を意識させる(7)**
- ・予定や時間を伝えて見えるところに貼り、予定や時間を意識させる

- * 体調に合わせた学習を設定する(4)**
- ・体調や体力に合った運動量や難易度の学習を設定する

- * 少しずつ学習に参加できるように取り組む(6)**
- ・達成したら印をつける等、意欲を高めながら参加する時間を徐々に増やしていく
- ・体調に合わせて学校に来られるようにしていく

安定期 (13)

- * 様々な活動を実施する(4)**
- ・清掃活動、散歩、買い物、プール、スキー等様々な活動を行う

- * 体調や生活のリズムの理解を深める(4)**
- ・就寝、体温等を自分で記録して体調を把握し、より良い生活のリズムを知る

- * 将来に向けての活動設定(5)**
- ・就職後、生活リズムを整えることや時間を守ることの大切さを話しあう

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

F2. 食事(13)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・食事の前になるとイライラして集中できない
- ・一日中、ほとんど食事らしい食事をしていない
- ・昼食は決まってコンビニのおにぎりを食べ、バランスの良い食事ができていない

受容期 (4)

- * 気持ちを聞いて受けとめる(2)**
- ・食事の話題はできるだけせず、話題になった時には否定せずに受けとめる

- * 食べる場所を工夫する(2)**
- ・みんなからは見えない個室などで食べる

試行期 (5)

- * 無理なく取り組めるようにする(3)**
- ・食事の機会を設け、少量でも食べることを促す
- ・無理なく調理をする機会を設ける

- * 相談しながら行えるようにする(2)**
- ・食べなければならない状況になった時のことについて、方法を少しずつ提案して相談しておく

安定期 (4)

- * 集団や友達と取り組む設定(2)**
- ・行事や集団での食事をしたり、学習班で調理をしたりする

- * 自分で食事が作れるようになる(2)**
- ・昼食を作るように促し、作った日はスタンプを押す

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

F3. 服薬(8)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・薬を勝手に止めてしまったり、飲まなかったりする
- ・毎日、同じ時間に薬を飲むことができない

受容期 (2)

- * 気持ちを聞く(2)**
- ・飲まない理由等を聞く
- ・不信感などを表出させる

試行期 (4)

- * 薬を飲んだか確認する(4)**
- ・朝や昼食後、チェックシートを使用して確認し、時間や容量を守って飲めるようにする

安定期 (2)

- * 薬を飲む理由を理解させる(2)**
- ・なぜ飲まなければならないかを理解できるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

F4. 病気の理解(37)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・衝動に任せて行動し、暴力をふるったり、治療や登校を拒否したりする
- ・自分が病気であると思っておらずに無理をして、倒れたり、失敗したりを繰り返す
- ・病気のために自己肯定感が低くなり、他人と比べて落ち込む

受容期 (8)

* 気持ちを聞く(4)

- ・無理のない話からはじめて、本人が気持ちを話すまでじっくり待つ

* 安心できる環境作り(4)

- ・状況を十分に把握し、時間をかけて信頼関係を作る

試行期 (16)

* 体調を確認する設定(3)

- ・朝の会で唇の色など、具体的な状態をチェックする健康観察の時間を設ける

* 相談しながら行えるようにする(3)

- ・面談を行い、行動面や本人の良いところ等を一緒に考えていく

* スモールステップで取り組ませる(6)

- ・学習面や行動面について細かく段階を取り組めるように提示する
- ・何が課題が考えて取り組み、振り返りと評価を積み重ねる

* 無理なく取り組む活動設定(4)

- ・具体的な内容や休み時間を提示し、声かけを丁寧にしながら取り組む

安定期 (13)

* ミュニケーションを促す活動設定(4)

- ・友達とゲームなどをしたり、顔色などの体調を確認し合う活動を行う

* 目標を設定して取り組ませる(4)

- ・週ごとに目標を相談しながらつくり、達成できた時にほめる
- ・目指したい将来の姿について考える時間を設ける

* 長期的な見通しをもてるようにする(5)

- ・気持ちや体調のグラフから客観的に振り返り、今後の変化について予想する

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す

F5. ストレスへの対処(67)

Co-MaMeによる 【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・ストレスがたまり、学習に集中できず、泣いたり、騒いだりして登校できなくなる
- ・怒られることや勉強等の期待からイライラして不安定になる
- ・不満がたまり切り替えられず、苦手なことから逃げる

受容期 (18)

* 気持ちを聞く(7)

- ・いつでも不安等を話せる環境をつくる
- ・表情の変化から気持ちを聞いて受け止める

* クールダウン、休憩できるようにする(5)

- ・適宜、休憩をとり、パニックになりそうな時は、その場から離れてクールダウンさせる

* 授業の参加方法を柔軟に変更する(3)

- ・体調を見ながら、決まった時間や場所だけ参加するなど、土台を作っていく

* 無理なく好きな活動ができるようにする(3)

- ・興味の持てることや、楽しくできることを繰り返し行う

試行期 (21)

* 相談しながら行えるようにする(4)

- ・ストレスや不安、相手へ伝えたいことを相談しながら整理する

* 解消する方法を伝える(4)

- ・ストレスを解消する良い掲示する

* 見通しをもたせる(3)

- ・見本を見せたり、活動の流れを掲示したりして見通しが持てるように視覚的に工夫する

* 取り組む姿勢もほめる(3)

- ・姿勢もほめて、自信につながるようにする

* スモールステップで行う学習設定(7)

- ・ハードルの低いことから取り組み自信をつけていく
- ・個別に行ったり、小集団で教員も一緒に行ったりする

* 対処方法を考えて取り組めるようにする(13)

- ・ストレスがたまる理由や状態を考えて、どのようにすれば対処できるか考えて取り組む
- ・ストレスの発散方法や折り合いをつける方法をSSTや普段の生活から学ぶ

* 苦手なことに取り組む(7)

- ・苦手になった理由を整理してどのようにすれば出来るようになるか考えて行っていく

安定期 (28)

* 自分の特徴や状況を理解する(6)

- ・どのような時にイライラするか、理由や気持ちから自己理解を深め、周りの状況ややるべき内容を考えて整理する

* ストレスを自分から伝えられるようにする(2)

- ・ストレスを感じたら、自分から伝えられるようにする

National Institute of Special Needs Education

()内は件数を示し、課題及び支援の具体例は代表的なもののみ示す